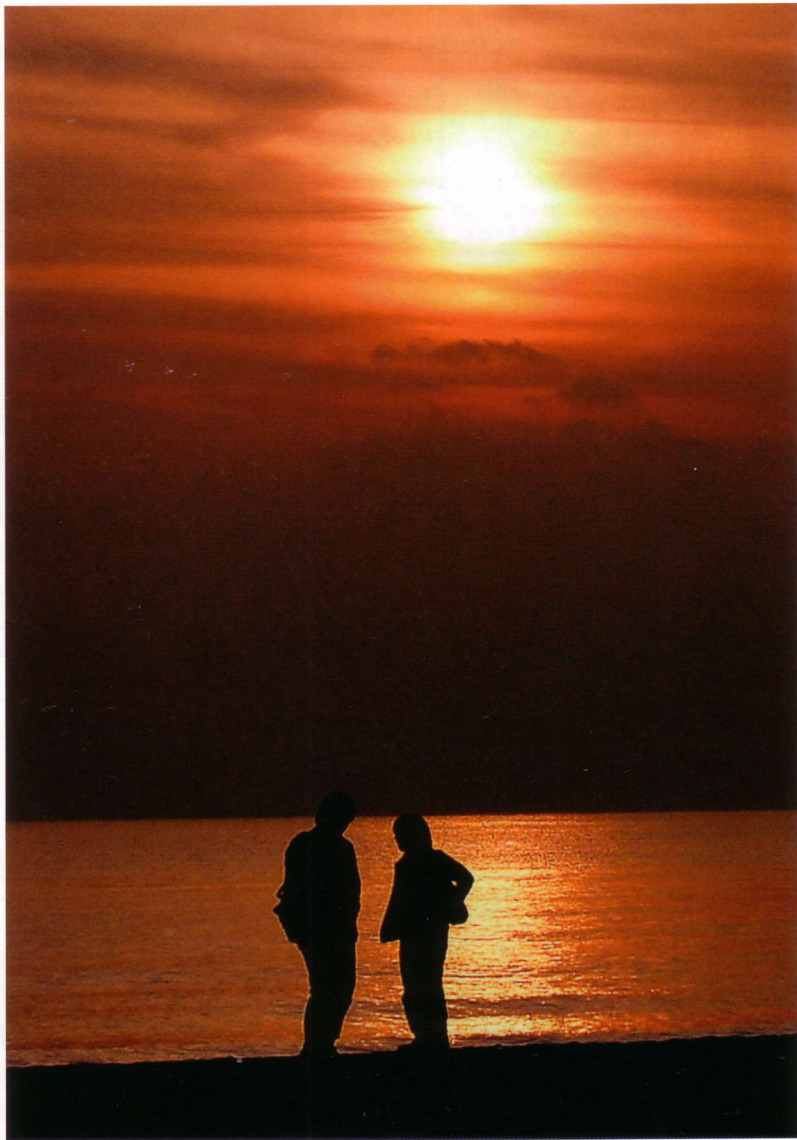


# 多賀工業会 東京支部会報

2006年8月 第9号



鎌倉由比ヶ浜「二人の世界」

報 告	第26回東京支部総会開催のご案内	.....	1
	講演会の講師と概要紹介	.....	大泉 雅靖..... 1
	東京支部長挨拶 (第25回総会に当たって)	.....	近江 義勝..... 2
	第25回東京支部総会報告	.....	玉川 信二..... 2
	総会時の講演 (地熱エネルギーの話) 概要	.....	山崎慎一郎..... 3
	総会出席者名簿及び写真出展者名簿	.....	4
	平成17年度東京支部会計報告	.....	5
	平成18年度東京支部予算案	.....	5
座談会	「東京支部の活性化のために」	.....	6
随 筆	不良海外駐在サラリーマンのその後	.....	水口 一郎..... 8
	趣味と仕事をミックスさせて楽しむ	.....	金子 芳久..... 9
	ふと、立ち止まってみると	.....	永木 利夫..... 10
	異常気象に思うこと	.....	石川 久..... 11
	「伊能忠敬」雑稿	.....	加藤 巷児..... 15
	私の支部総会初参加体験記	.....	伊東 庸子..... 16
	私の合唱歴	.....	溝口 知昭..... 17
インタビュー記事 (活躍人訪問)	五十嵐 喜良氏		
	昭和基地で2度越冬 電離圏観測で成果	.....	鈴木 想一..... 12
支部めぐり	いわき支部の紹介	.....	佐藤 博..... 14
お知らせ	平成17年度会費納入者	.....	編 集 部..... 18
	囲碁同好会	.....	山下 正明..... 20
	ゴルフ同好会	.....	兼子 八郎..... 21
	写真同好会	.....	玉川 信二..... 22
	山遊会	.....	小宅 仁..... 23
	東京支部ホームページについて	.....	矢野 睦男..... 24
	編集後記	.....	24
	多賀工業会東京支部会則	.....	表3

表紙の説明

鎌倉由比ヶ浜「二人の世界」

カメラ：ニコン D50 デジカメ

2005年11月28日、全日本写真連盟大宮支部(支部長 斎田和夫氏(昭28学機))主催の鎌倉での撮影会に参加させて頂きました。紅葉の鎌倉を撮影するのが目的でしたが、紅葉は今一の感じでした。帰りがけ由比ヶ浜に立ち寄ったところ、夕暮れの海岸に寄り添う恋人らしい二人を見かけ、シャッターを押しました。私などはるか遠い昔の思い出となってしまいましたが、何時の世でも微笑ましい光景です。

小林 渡 (昭38学電)

表紙の題字は杉山 六郎会員 (昭24専舶)

# 第26回多賀工業会東京支部総会開催のご案内

1. 日時 平成18年10月14日(土) 午後3時から
2. 場所 上野精養軒(右図参照)  
東京都台東区上野公園4-58  
電話 03-3821-2181(代表)

## 交通

- ：JR上野駅公園口下車徒歩5分
- ：京成線京成上野駅下車徒歩5分
- ：東京メトロ銀座線日比谷線上野駅下車  
西郷隆盛像から徒歩5分

3. 会費 10,000円(当日受付にて申し受けます)

4. 講演会 演題 「ライフサイクルマネジメント  
への挑戦」

(午後4時～5時まで)

講師 広瀬 勇二氏(昭40学電)

講師略歴と講演内容は下記をご覧ください。

5. 懇親会 (午後5時00分～7時ごろまで)

6. 写真展 総会の会場内に展示します。(写真部員以外の会員からの出展をお待ちしております)

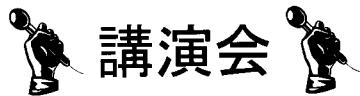
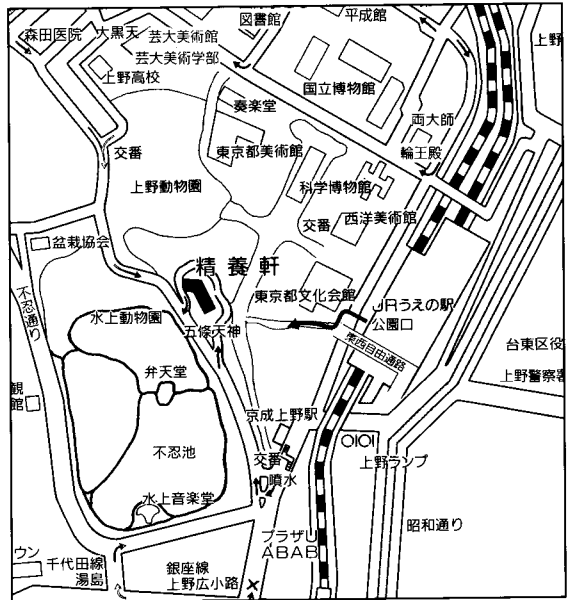
7. お願い 出欠のご返事は9月29日(金)までに同封のハガキにてお願いします。

なお、出欠にかかわらず、お手数でも同封の振込用紙にて、年会費2,000円をお振込みくださるようお願い申し上げます。

8. お問い合わせ先

駒場 方耀(昭38学機) TEL: 0426-65-8387

広瀬 行一(昭38学電) TEL: 0297-78-8737



## 講演会 「ライフサイクル マネジメントへの挑戦」

現 (株)PFU 常勤顧問

講師 広瀬 勇二氏(昭40学電)

元 富士通(株)専務取締役

元 (株)PFU代表取締役社長(平成18年退任)

広瀬氏は富士通、PFU社で情報革命が急激に進む中で、IT産業の厳しい戦いに挑戦してきました。特にITシステムの企画、開発、運用、保守を人間の生涯になぞらえて、お客様の企業のIT活用に関する全過程を一貫してサポートするとして(ITサイクルマネジメント)を提唱してき

ました。質の高い一貫性のあるサービスの提供で顧客のTCO(システム総費用)の圧縮にもつな

がり最近では広く普及してきましたが、富士通やPFU社において、広瀬氏がこのシステムを提唱し普及に努めた経験を紹介していただきます。併せてユビキタス事業で一步先を行



く会社として評価されている富士通でのご苦勞やPFU社長として、先端企業を経営してきた広瀬氏の講演に期待し、多くの多賀工業会会員諸兄の参加をお待ちしています。

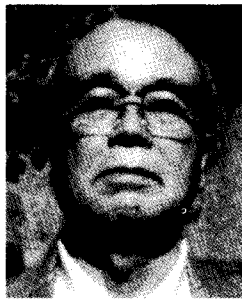
[紹介者: 大泉雅靖(昭40学精)]

# 東京支部長挨拶 第25回総会に当たって

支部長 近江 義勝 (昭28学電)

すっかりしない天候にも拘わらず、本部より新理事長はじめ8支部代表の方々のご出席を頂き誠に有難うございました。長い間総会会場となっていた東條会館が営業方針を転換し、貸しビルに変わりました。このため交通の便、会場の施設等を考慮して上野の東天紅に決定いたしました。

いずれの支部でも共通の悩みは総会参加者数だと拝察致します。東京支部も多い時は150人前後で、その時は工専関係が約70%でした。その後工専と大学が半々となり、最近では工専より大学が多くなっています。工専は増えることはなく減少、大学の方は年々卒業生があるから増加して当たり前です。本日は工専22%、大学78%の参加ですが、昭和40年以降が非常に少ない。



丁度リタイヤ前後でやむを得ないかも知れませんが、年1回の同窓の集まりなので何とか都合をつけて参加して頂きたいと思って、先輩諸兄にご意見を伺いました。何人かの女性に幹事会に入って貰えとのご意見があり、早速本部から資料を頂いて女性卒業生に折衝しお願いいたしましたが見目でした。このことも含めて常々思っていますのは、同期生が3人以上出席していないと次年からは欠席となってしまうことが多い。本日ご出席の方々に良い案がございましたら是非お教え下さい。

本年度の総会案内状況を申し上げますと

会員区分 10年間単位	発送数	転居先 不明	本日 出席数
工専 S16~26	198	1	13
学 S28~37	164	1	23
学 S38~47	310	5	24
学 S48~57	265	15	0
学 S58~H4	161	31	0
学 H5~	86	2	0
合計	1,184	55	60

のようになります。S48~H4 卒の転居先不明者のフォローをしてゆくことなども必要かと考えています。

本日はご出席有難うございました。

## 第25回東京支部総会報告

玉川 信二 (昭28学電)

多賀工業会東京支部第25回総会は平成17年10月15日に、上野「東天紅」で開催された。「東天紅」は昨年までの東条会館に代わって設定された会場で、不忍池に相對し、建物7階の広い窓からは池や寛永寺をはじめ上野公園が広々と見渡せる眺めのよい場所に位置する。

最初は例年通り、近江支部長(昭28学電)の挨拶と鶴田本部長(昭42学電)の祝辞で開始された。続いて幹事会の開催・支部会報の発行・ホームページの編集等の支部としての公式の行事の報告、囲碁同好会・ゴルフ部・写真部・山遊会等の資料を配布しての同好会実施報告、会計報告等がそれぞれの担当幹事によって行われ、会計報告については承認された。

講演会では講師として予定されていた渡辺益男(昭19専精)氏が病気のため、山崎慎一郎(昭

31学原)氏による「地熱エネルギーの話」の講演が代行された。講演概要は次ページに掲載するが、14ページにも亘る資料が配布され、非火山性も含む低温から高温熱水・蒸気までの地熱の温度別利用方法、地熱発電の原理と方式、日本各地と海外のフィリピン・インドネシア・チベット・台湾の地熱発電所・タイの地熱地帯の紹介、地熱発電の問題点と経済比較等々、多岐にわたるものであった。特にチベットの「羊八井」では世界最高の地点に設置されており、注目すべきものである。地熱発電といえば火山性の蒸気によるものだけと思っていた我々には、全く耳新しい熱エネルギーの有効利用の知識を得る事ができた。

懇親会では最初は卒業年度別に分かれたテーブルに着席したが、そのうち各年度の会員が入り混じり他支部来賓も加わって、和気藹々と時間の経つのを忘れ話が弾んだ。こうして予定より約1時間超過し、8時頃散会した。

総会出席者名簿と同時開催の支部写真同好会作品展出品リストは4ページに掲載しています。

# 総会時の講演概要

編集部から

当初講師に予定されていた前支部長の渡辺益男（昭19専精）氏が体調不良となられたので、前幹事長で国立東京高専名誉教授の山崎慎一郎氏が代役を務められました。

熱エネルギーの話

## 地熱発電所

山崎慎一郎（昭31学原）

### 1. 地熱発電

熱エネルギーとなる地熱資源には、火山性（浅部、深部熱水系、高温岩体、火山）と非火山性（深層熱水、温水）がある。

これらの資源は、高温岩体発電、火山発電、地熱発電、温泉として利用されている。また、熱水は工業的に180℃の高温から段階的に10℃まで利用されている。

地熱発電は、地下から噴出する天然の、または地上からの注水による蒸気又は熱水を利用してタービン・発電機を回し、発電を行うものである。このため、燃料費がかからず、さらに、単位発電量当たりの二酸化炭素排出量が火力発電の約20分の1と少ないので、地球の温暖化防止の上からも大変良い発電方式である。

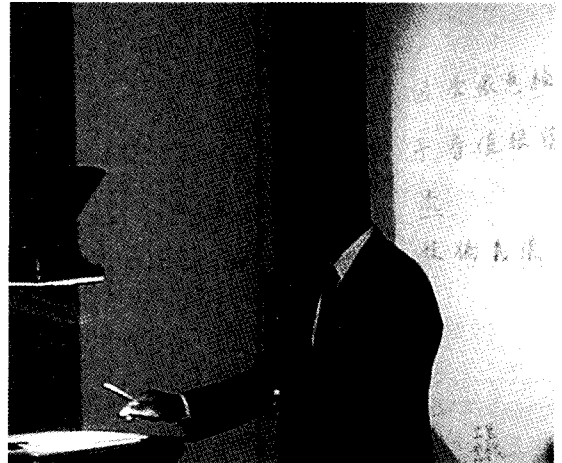
実用化の歴史を見ると、地熱発電は、1904年、イタリアで天然蒸気を利用して0.75馬力の発電機を実験的に運転したのが始まりで、1913年、世界で初めて250kwの地熱発電の実用化に成功した。

### 2. 日本での実用化

日本では1920年、蒸気井を利用して、別府で最初の1.12kwの発電に成功した。現在、稼働している日本の地熱発電所は、岩手県の「松川」23,500kwを筆頭として全部で合計17ヶ所にあり、総発電量は533,305kwである。この量は日本の発電総量から見ると0.2%に相当する。

この中の一つは、別府の杉乃井ホテル専用のもので、ここでは、早々と地熱による給湯・冷暖房を行っていたが、その後発電所を建設して、全ての電力を地熱発電で賄うことに成功した。更に、発電後の排気の中に含まれるシリカを取り出して

シリカ電池を作成し集会所に貼りつけて電力に変換したり、又、発電の廃熱を利用して宿泊客の排泄物をガス化し燃料として使用している。



### 3. 世界での実用化

世界の地熱発電所は22ヶ国にあり、アメリカが最大で2,849.8Mwの出力。各国の発電総量は合計7,326.16Mwである。この量は全世界の総発電設備から見ると僅かなもので0.4%である。

中国の地熱発電の主要地はチベットで、4,300mと世界一高い所にある。地下100~300mの蒸気井から蒸気、熱水を取り出して発電し、排水を利用してグリーンハウスを作り野菜の栽培をしている。この地熱地帯は非火山性で大陸地殻の移動による深層地熱によるものと考えられる。

フィリピンはアメリカに次いで世界第二位。首都マニラのあるルソン島の南部、マキリン火山とバナハウ火山の間にMac-Ban発電所（発電機・タービンは三菱製）がある。私が訪れたときは丁度建設中であつた。同じルソン島の南端、ルソン島第二の都市レガスピの郊外には噴火・爆発を繰り返しているマヨン火山があり、この近くにTiwi発電所（発電機・タービンは東芝製）がある。

この他メキシコとイタリアが日本よりも幾分発電量が多い。

インドネシアは日本より発電量は少し少ない島国で、180の火山があり、カモジャン発電所は1~1.5kmの蒸気井からは過熱蒸気を得られて、効率よく発電が行われている。

タイは非火山国であるが、北部の「黄金の三角地帯」と呼ばれている近くには広大な地熱地帯がある。これもチベットと同様大陸地殻の移動による深部地熱と考えられている。今後の大規模な利用が期待される。

#### 4. 地熱発電の問題点

地熱発電の問題点は、硫化水素の放出による大気汚染、建設中のボーリング作業による騒音・振動、噴気の騒音、熱水・蒸気採取による地盤沈下、土砂流出による河川水の汚染、土壌汚染、熱水・蒸気の放出による植物の損傷、景観の変化、泥水の温泉への混入、温泉の減衰、熱水還元による人工地震の誘発等がある。

また、わが国の地熱地帯は、国立公園法で開発が規制されている区域が多くて簡単に開発できない点がある。

#### 5. 地熱発電の経済性

調査から建設まで長年かかり、建設単価が予測できない面がある。「大沼発電所」は、三菱マテリアルが自社の金属製錬用の電力源として建設着工した。途中段階で費用が余りにも大きくなって、中止を考えたが、社長の決断で完工させた。この

後、まもなくオイルショックが起こり日本中が大混乱に陥ったが、この発電所のお陰で制約を受けずに営業出来た。一方、「森発電所」は建設の途中で、逆に工事費が下がる事態に恵まれた。

建設コストは発電規模、算出者によってばらつきがある。最近の資料によると 1kwh 当たり、地熱は 16 円、水力 13.6 円、石油火力 10.2 円、石炭火力 6.5 円、天然ガス火力 6.4 円、原子力 5.9 ~ 14.2 円となっている。

#### 6. むすび

熱は高温から低温まで利用出来る。エネルギー資源の無い日本にとって、熱の有効利用は極めて大切である。熱力学の始祖 Sadi Carnot (1796~1832) の言葉「動力の発生を伴わない熱の高温から低温への移動は、正味の損失と見なさなければならぬ」をよく噛み締めなければならない。

## 総会出席者：(写真出品者とも敬称略)

### <来賓> 9名

鶴田 浩一 本部 理事長 (昭42学電)  
軍司 貞 日立総合支部 副支部長 (昭33学機)  
内山 岩男 水戸勝田支部 支部長 (昭30学電)  
矢澤 藤一 仙台支部 副支部長 (昭28学電)

### <会員> 60名

林 義雄 (昭16専原) 近江 義勝 (昭28学電)  
田邊 良美 (昭17専金) 玉川 信二 (昭28学電)  
依田 連平 (昭17専金) 赤城 清 (昭28学金)  
市島 健夫 (昭18専金) 照沼 清 (昭29学金)  
山田 実 (昭18専金) 石川 英二 (昭30学原)  
柳田 裕美 (昭19専精) 鈴木 日出男 (昭30学原)  
田島 廣一 (昭20専精) 三本木 武 (昭30学金)  
立花 浩 (昭22専機) 瀬在 城雄 (昭31学原)  
野坂 賢司 (昭22専電) 山崎慎一郎 (昭31学原)  
幸道 貞一 (昭22専通) 榊原 康夫 (昭32学原)  
飯島 公正 (昭23専原) 矢野 睦男 (昭32学原)  
斉田 耕平 (昭23教電) 小室 秋生 (昭32学電)  
渡邊 貢 (昭26専原) 田崎 耕八 (昭32学電)  
高田 丈夫 (昭28学機) 佐藤 馨 (昭33短電)  
柳沢 裕 (昭28学原) 粕谷 宏夫 (昭34学原)

桐敷 忠雄 栃木県支部 副支部長 (昭35学金)  
阿部 徳治 埼玉支部 副支部長 (昭37学化)  
高田 勲 静岡支部 支部長 (昭37学機)  
塚越 要夫 千葉県支部 俳句会長 (昭25専電)  
佐藤 博泰 中部支部 支部長 (昭37学金)

高野 史雄 (昭34学電) 広瀬 行一 (昭38学電)  
高野 久弘 (昭35学機) 矢嶋 國男 (昭38学精)  
上月 秀俊 (昭36学機) 原 俊彦 (昭39学電)  
小宅 仁 (昭36学電) 小野 真 (昭39学化)  
川松 正長 (昭36学電) 高久 洋 (昭40学化)  
佐藤 栄一 (昭37学電) 大泉 雅靖 (昭40学精)  
河上 弘一 (昭38学機) 寺 紘一 (昭40学精)  
大原 祥生 (昭38学機) 青野 潔 (昭41学化)  
駒場 方耀 (昭38学機) 小森 広樹 (昭42学機)  
中村 好秀 (昭38学機) 菅谷 禎男 (昭42学機)  
兼子 八郎 (昭38学電) 石川 久 (昭44学子)  
熊谷 文男 (昭38学電) 武井 三雄 (昭44学子)  
小林 渡 (昭38学電) 常盤 浩央 (昭44学子)  
高萩 隆司 (昭38学電) 中島 穰 (昭44学子)  
新沼 厚生 (昭38学電) 飯塚 英一 (昭46学電)

## 展示写真：出品者名と作品題名、出品総数

斎田 和夫 (講師) (昭28学機) 見知らぬ家族 1  
(埼玉県展・米国オレゴン州国際写真展入選)  
玉川 信二 (昭28学電) 大草原を行く羊 他 3  
鈴木 日出男 (昭30学原) 祭に急ごう 他 2

(花物語写真展優秀賞・埼玉サロン展)

瀬在 城雄 (昭31学原) 井の頭公園 他 2  
山崎 慎一郎 (昭31学原) 月下美人 他 2  
田崎 耕八 (昭32学電) 鎌ヶ池の秋 他 6  
小林 渡 (昭38学電) 尾瀬ヶ原の秋 他 4

## 平成17年度多賀工業会東京支部会計報告

平成17年4月1日～平成18年3月31日 (単位 円)

### 収入の部

費目	17年度予算	実績	増減	摘要
総会費	800,000	650,000	-150,000	80名の目標が参加65名新会場へ移動での参加減
年会費	600,000	588,000	-12,000	257名294口
広告費	40,000	30,000	-10,000	広告掲載社2社減
本部援助金	250,000	250,000	0	
寄付その他	0	60,002	60,002	寄付+利息
前年度繰越金	448,576	448,576	0	
合計	2,138,576	2,026,578	-111,998	平成17年度純収入額は 1,578,002

### 支出の部

総会費	700,000	526,253	-173,747	参加人員目標を20%弱減
総会場・懇親会費		437,068		東天虹で実施
その他諸費用		89,185		講師謝礼、通信費等
会報編集発行費	600,000	496,704	-103,296	編集方法の改善
会報諸印刷費		314,750		1300部発行
会報配送費		136,950		
その他諸費用		45,004		原稿収集費等
会議費	250,000	87,676	-162,324	会議回数の減少
旅費交通費	250,000	170,340	-79,660	支部本部総会へ参加数の減少
他支部総会参加費		167,940		9他支部本部総会への参加交流
交通費		2,400		
運営費(交流経費)	180,000	90,627	-89,373	交流援助費増額遅れ
通信費		7,490		支部間・支部内郵便代
同好会援助		60,000		4支部対抗ゴルフ・支部内の同好会へ
雑費		22,687		記念品代・他支部への吊電・他
予備費(次年度繰越金)	158,576	654,926	496,350	
合計	2,138,576	2,026,578	-111,998	平成17年度純支出額は 1,371,652.

以上の通り報告致します。

平成18年5月27日

上記の通り適切である事を認めます。

平成18年6月8日

会計幹事

上月 秀俊



監事

榊原 康夫



監事

小宅 仁



## 平成18年度多賀工業会東京支部予算案

平成18年4月1日～平成19年3月31日 (単位 円)

### 収入の部

費目	18年度予算	増減	摘要
総会費	800,000	0	前年並みを第一目標とした
年会費	600,000	0	同上
本部援助金	250,000	0	
広告料	40,000	0	広告受け入れを2社位増やしたい。
前年度繰越金	654,926	206,350	
合計	2,344,926	206,350	

### 支出の部

総会費	700,000	0	80名以上の参加を予測し前年並みに
会報編集・発行費	600,000	0	内容充実を図る為座談会等取材費増を計上、発行計画1300部
会議費	100,000	-150,000	前年実績による
旅費交通費	185,000	-65,000	支部総会への参加の会費分を交流経費へ移行
交流経費	235,000	55,000	活動活性化を計る為他支部との交流費、同好会援助費を増
次年度繰越準備金	524,926	76,350	次年度繰越準備金として会報編集費相当額を準備
合計	2,344,926	206,350	

## 東京支部の活性化のために

東京支部に限ったことではないようですが、同窓会活動は伸び悩みというか、活発的とは言えないような状況にあると見受けられます。時代の趨勢とか言って一口で片づけられる問題ではないとの思いもつり、有志で話し合ってみました。急用により当日（平成 18 年 4 月 30 日）になって参加出来なくなった方（若手の方）もありましたが、下記 5 人の方に参加して頂きました。編集部：兼子八郎（昭 38 学電）

出席者 近江 義勝（支部長）（昭 28 学電）、三本木 武（幹事長）（昭 30 学金）、  
 広瀬 行一（副幹事長）（昭 38 学電）、小林 渡（編集部、写真部）（昭 38 学電）、  
 飯塚 英一（昭 46 学電）（勤務先（株）日立製作所を経て 現（株）信濃電気）

広瀬：東京支部設立 30 周年を迎えるのも間近となりましたが、やはり設立当初はどうだったのかが今日の話の入り口でしょうね。このような会合に参加して前支部長の渡辺益男（昭 19 専精）さんを知り、昭和 42 年に仲人をして頂いた。このころ既にそれなりの母体は出来ていたことになりませぬ。

三本木：東京支部として組織化されたのは昭和 56 年だから、これよりも大分前のことになるわけですが、藤村理人（昭 25 専金）さん（故人）が発起人になってお茶の水に集まっていたようです。



やはりお互いに励まし合いたいという気持ちが強かったのでしょう。

近江：既に設立されていた千葉県支部と埼玉支部から相当の資金援助をしていただき、昭和 56 年 6 月に東京支部が設立されました。最初の支部長は多賀工専第 1 回卒業の石井善郎（昭 16 専機）



さん（故人）がなられ、長期にわたり石井時代が続きました。

この間、東條会館を経営されていた東條重男（昭 18 専原）さん（故人）が総会会場のみならず、通常の会合等にもお茶付きで場所を提供して下さり、一方ならぬ恩恵を受けたのです。この時代は特に同好会的なものは未組織でしたが、総会への参加者は毎年 130～150 人位ありました。平成 11 年に本部 50 周年記念と

合同で催した箱根での総会がこれまでの最高の集まりだったと思います。ところが時代の趨勢なのかも知れませんが、ここ何年かにわたって総会参加者は来賓込みで 70 名前後と低調になってきています。これから考えて行かねばならないのはこの辺のことだと思います。

箱根総会の翌年に山下正明（昭 32 学電）さんが囲碁同好会をつくり、4 人でスタートしましたが、今では 30 名を超える賑わいになっています。その年ゴルフ同好会も組織されています。

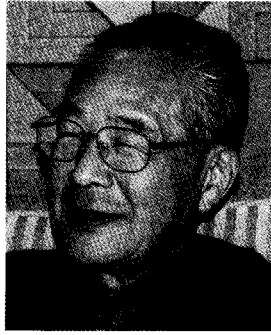
総会会場となる上野精養軒にて



三本木：同好会活動が同窓会の基礎になるのが望ましいけれども、世の中はどちらかと言えば個の時代でもあり、号令一つで動かせるものではなくてきていますね。

近江：3 年前、2 代目支部長の渡部益男さんから支部長を引き継いだとき、写真部や山遊会は出来たばかりでした。山遊会や囲碁同好会などは非常に活発に活動をしているので頼もしく思っています。このような同好会活動の活性化は、「同窓会の交わりを大切にしよう」と訴えてきたことに呼応しており、このような同好会の参加者が総会を盛り上げてくれるようになることを望んでいます。

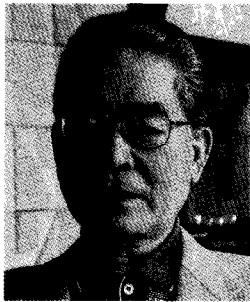
広瀬：総会参加者が少なくなってきたと言  
う事実は多賀工業会のみ  
の悩みではなく、世の中  
の同窓会に共通的なもの  
のように思われます。その  
根底に有るものは



- (1) 同窓会をまとめる  
人がいない。
- (2) 個人個人が自分の時間を大切に、個人と  
の接触を煩わしく思う人が増えている。
- (3) 昔と違って同じ会社内でも同窓会の集まり  
が無くなってきた。
- (4) 会費の割に得るものが少ないと思う人も増  
えてきた。

等の現象が考えられますが、クラス会は万年幹事  
がいなくても次回幹事持ち回りにするなどして、  
結構活発にやられている例は多い。お互いに知っ  
ているものだけだから気楽というか、気心が知れ  
ているというか、集まりやすいようです。  
もっと同窓会を魅力あるものにするために前向き  
な策を考えなくてはならない時ですね。

小林：例えば、今年選暦を迎える年の方が担当  
幹事になって、その年の同期会とかクラス会を並  
行して開催することなどが慣行化出来れば、盛り  
上がった総会となることは確実だと思います。



常々思っていること  
ですが、このためには総  
会担当年次の幹事に、総  
会運営についてもっと柔  
軟な考えを取り入れられ  
るようにし向けていく必  
要もあるのではないかと  
と……。

近江：若い世代の同窓生には同窓会活動の実態  
が知られていないようです。会の存在をアピール  
するために会報を年2回発行出来ないかと思いま  
す。千葉県支部などでは年2回発行を続けていま  
すので、東京支部でも是非そうしたいものです。

そして講演会の魅力で総会参加者を増やした  
い。若い年齢層の講師を招くことも一考でしょう。  
そうすればその年度の参加が増える。講師の年齢  
が下がれば参加者の年齢も下がってくるのではな  
いかと思うのです。さらに会報の内容のことで言  
えば、記事がこの処海外レポートに片寄ってきた

きらいがありますね。欲張りかもしれませんが、  
バランスの取れた内容の記事が溢れて、配布が待  
ち遠くなるような会報にしたいものですね。

三本木：総会への参加者数を増やすという観点  
からみれば、企業をベースに人を集めるのが手っ  
取り早いようです。日立総合支部などはその典  
型ともいえるべきで、企業（工場）ごとに支部が作  
られています。

飯塚：私も以前日立の工場から本社に移ったと  
き、先輩から声をかけて貰って同窓会に出席する  
ようになりました。引っ張ってくれる先輩に恵ま  
れたのは有難いことでした。

三本木：自分の出身高校同窓会では総会とは別  
に年2回異業種交流会という催しをやっており、  
ここでは各自が自己PR出来るシステムになっ  
ています。これは若い人が同窓会に関心を示し、  
参加してくるきっかけとなっているようです。

近江：大学に、卒業するクラス毎に幹事を作ら  
せるよう指導して欲しいと頼んだことがあったが、  
出来ないと言われたことがありました。幹事を作  
っているクラスは少ないのではないかと思います。

飯塚：我々昭和46年卒  
業のクラスでも幹事は決  
めなかったし、現在音頭  
とするものがいません。で  
も2年後60才になった  
ときに、科別（クラス別）  
でなく年次全体でやろう  
かとの話が出ています。



如何にしてこの同窓会の存在を知らせていくか  
ですが、同一企業に後輩がいるとすれば後輩にそ  
の存在を知らせていくことは大切ですね。でもそ  
のようなことをやる人もいなくなっています。ク  
ラス等の仲間とも連絡を取り合って各種行事に参  
加するようにしたいと思います。

終わりに：若い人の参加を切望するのは、永遠  
の課題のようです。同窓会は年寄りの集まりだど  
うい概念が何となく恒常的にあるのは否めません。  
課題に対する正解はありませんが、少しでも多く  
の人に楽しい会をやっているんだという事をどん  
どんアピールして行きたいものです。

昭和28年、30年はクラス毎だけではなく年次  
全体の会合をもっていますが、昭和46年がこれ  
にチャレンジしそうな気配が見え、嬉しいかぎり  
です。この話が成就するよう期待しましょう。

# 不良海外駐在サラリーマンの その後

水口 一郎 (昭 57 学機)

## ◆ 自主リストラ

そもそも、機械工学科を卒業したのに商社に就職したのは、成績が良くなかった事もあるが、子供の頃からの海外（特にアメリカ）への憧れがあったのだと思う。取り敢えず日本で無難に仕事をこなす事 11 年。その後、海外勤務を打診され、「渡りに船」とロサンゼルス事務所に転勤。家族ともども（赴任時は長女が 6 歳、長男が 3 歳前だった）慣れない海外生活を始めた。仕事は私なりに一生懸命したのだが、赴任して数ヶ月後に「もしかして、ここは私が定住する所かもしれない・・・」と言う予感がした。「アメリカに残れるのかなあ・・・」と漠然とした思いを抱きつつ、数年経つと家族全員日本に帰りたくない症候群が出始めた。別に日本が嫌いなわけではないが、広々とした居住空間。日本での色々な好ましからぬ教育環境の噂。商社不要の風潮からこのままサラリーマンをしていて、将来に夢は？理由は色々あれど、つまるところは帰国したくないと言うのが家族の総意になっていた。

この頃、幸か不幸か分からないが、とある米人と知り合いになり、「環境ビジネスをしてるので、我が社にジョインしたまえ！！アメリカン・ドリームを一緒に実現しよう！」との事で意気投合。これまた「渡りに船」と、後先考えずに自主リストラを実行してしまったのであった。

## ♥ 海外で働くと言う事

「人生一度きり。生きたい様に生きるのだ！！」と張り切って仕事を始めたが、実はこのパートナーは自分では資本金を投資しておらず会社内で実権が無い事が判明。私も運転資金として自己資金を投入することは考えておらず、給料をもらうつもりだった。従って貯えは無く、会社も滞在ビザのサポートはしてくれたが「給料払う約束はしとらん！」と、突然の無給料、無保険状態。まさに漫画の一シーン。「主人公の後姿に木枯らしが吹きぬける」と言う体たらく。

「人を見たら泥棒と思え」と言う言葉が大嫌い



で、脳天気生きてきた私にとって人生最大の試練が襲ったのだ。転職前に家を買ってなければ即、無職帰国のところ。

次に、英語の問題である。駐在時代の取引先の人達は、私の下手な英語に慣れていたが、本当の地元で仕事をするには駐在時代の英語はほとんど役に立たない事を実感。40 歳目前で転職した私も、この環境の変化についていくのがやっとだった。何とか、給料をもらえるようにし、仕事をそれなりにこなせるようになるのに丸一年かかってしまった。が、「アメリカン・ドリーム」には程遠い貧困に家族共々当分喘ぐ事になったのだ。

## ◆ その後・・・

その後も七転び八起き。結局以前務めていた会社に投資をしてもらい、省エネタイプの非常に特殊な電球の輸入販売をはじめ、ようやく、苦節 7 年目にして光明が見え始めた今日この頃である。

この電球は蛍光灯色を放つ物で「オレンジ色のロサンゼルス(LA の街灯はほとんどがナトリウム灯でオレンジ)の夜を白くしてやる！！」と、鼻息は荒いものの、まだ「最中」なので、私の「その後」は、まだまだ続くのである。

この様な間抜けな人生を歩んでいる私であるが、不思議と後悔は無く、一緒に苦勞をしてくれる家族（サラリーマンのままではこの様な家族の絆は生まれなかった）がいて、皆が健康でいられることに感謝。一度わがままで辞めた人間をサポートしてくれる、元の勤め先の方々に感謝。大きなトラブルに私を巻き込みながらも、未だに大きな夢を与えてくれるパートナーに感謝。わがままな人生を見守ってくれる家内の親兄弟、私の親兄弟に感謝。多くの人達に感謝する事を学んだ私である。

「幸せだけど、楽しくない」という、微妙な表現をする家内を楽しくするのが私の当面の目的だ。これを人生の山場と呼ぶのであろうか・・・

◆ 追記：もし、こんな私の「その後」に興味を持ってくださる諸先輩や後輩の方々がいらしたら、[ike@1800aes.com](mailto:ike@1800aes.com) まで、メールを頂けたら大変うれしいです。必ずお返事申し上げます。

## 著者プロフィール

1982年 某機械商社 入社  
1993年 同社ロサンゼルス支店 赴任  
1999年 同社 退社  
2000年 Adaptive Energy Systems 社設立  
現在に至る

趣味：アメフト観戦、航空ショー巡り、模型（含むラジコン）全般、ゴルフ、銃器収集など

# 趣味と仕事を ミックスさせて楽しむ

金子 芳久 (昭 48 学機)

## ◆ テニス

子供の頃から球技に興味を持ち、観戦したり自分でプレーを楽しむことが好きだった。小学生の頃は草野球に明け暮れ、中学・高校生時代はバレーボールに熱中し、大学生の時は体育の時間にサッカーや卓球を楽しむことが多かった。会社に入ってから、福利厚生施設としてテニスコートがあったので同僚とテニスを始め、以来20年以上プレーを続けている。最初の頃は、走り回って大汗をかき、その後で仲間と旨いビールを飲むのが主な目的である時期もあった。しかし、誘われて試合に出場するようになってからは、負けた悔しさより勝った喜びを味わう為に、真剣に練習に汗を流すようになった。そのため、何時でも好きな時にプレーを楽しめるように、会員制のテニスクラブに加入したのはこの頃である。入社以来首都圏勤務が続き20年以上転勤せずにきたが、40代の半ばに転勤となり家族を神奈川の自宅に残して単身赴任した。転勤先の仙台では、真っ先に会員制のテニスクラブ探しから始め、仕事のやり方を覚えるよりも優先させる始末であった。これに続く大阪時代もテニス環境を自ら整えて、ストレス解消・健康維持に大いに役立ててきた。会社の規定で月に2回は帰省できるので家族の顔を見に帰るが、赴任先に留まる時の週末は朝からテニスクラブに出かけ、終日、親しくなった会員とプレーしたりおしゃべりを楽しんだ。試合の方は学生時代から基礎を体に叩き込んでいる経験者にはかなわないが、自分と同じような環境で育ってきたプレーヤーとの対戦ではそこそこの結果を残すことができたように思う。1年前に約10年に及ぶ単身赴任生活に終止符を打って自宅通勤になってからは、土日の午前中は自由にさせてもらっているので、市民選手権で年齢別優勝を狙うべく練習に励んでいる(昨年は3位でした)。

## ◆ 溪流釣り

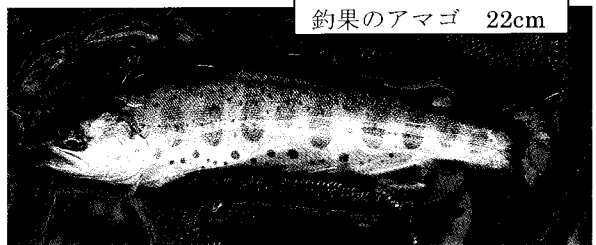
もう一つの趣味に溪流釣りがある。仙台に赴任していた時に、仕事仲間に誘われたのがきっかけ



だった。東北地方は清流に恵まれており、溪流釣りのフィールドとしては申し分の無い地域である。初めて10cmほどのチビヤマメを釣った時には、その美しい魚体に魅了された。それ以来、休みの日には自分から声を掛けてあちこちの川に出かけるようになり、まだ暗い内に出発してすっかり暗くなってから戻ってくることを繰り返すことになった。結果として、5年弱に及ぶ仙台勤務時代には青森の下北半島から秋田・岩手・山形・宮城・福島はては新潟まで遠征を繰り返した。釣果は持ち帰って会社の単身赴任寮の大型冷蔵庫に放り込んでおくのだが、数名の腕自慢がいてパーベキュー大会の時に塩焼きとして振舞ってくれたので、寮生他の参加者は野趣あふれる味を楽しめたことと思う。その後続く大阪時代には京都・滋賀・福井から奈良、さらには四国の川まで足をのぼして歩き回った。

## ♥ 趣味の範囲が広がる

対象魚はヤマメ・イワナからアマゴ・イワナに変わった。アマゴはヤマメに似ているが、体側にちりばめられた朱点が非常に美しい溪流魚である。もう一つ変わった点は、釣った魚は写真を撮った後逃がしてやることになったことである。その代わりと言うわけではないが、溪流沿いの草花や木の実等に眼が向くようになり、デジタルカメラで色々なアングルで写真を撮ってはプリントアウトして楽しむようになった。最近は採取した木の実で果実酒作りも行うようになり、趣味の範囲が広がる一方である。このようなわけで定年を迎えてもやる事が沢山あり、女房の尻にべったり張り付けて回ることもないと思うので、私の老後は安泰であると思っている。



釣果のアマゴ 22cm

## 著者プロフィール

昭和48年4月：清水建設(株)入社機械部配属、  
機械センター配属となり建設機械の整備・  
管理に従事、以後計画・現場常駐等を経験  
平成12年：独立分社化に伴い、  
(株)エスシー・マシーナリに転籍  
今までの勤務地は神奈川・仙台・大阪・東京

# ふと、立ち止まってみると・・

永木 利夫 (昭 45 学電)

## 1. 時間と老い

四年ぶりに家族でスキーに行きました。以前は、子供に目を配りながら滑ったものですが、今や我が子のリフト代が大人料金、親はシニア料金、愕然としつつも、得した様な、子供並みにしか滑れないと思われているのかと、複雑な思いでした。



義父が歩くのを見て、女房が気ばかりあせって、体が前に進まない、お尻の残ったような歩き方と評し、歳を取ると、気ぜわしくなるのかしらと、言っています。

89 歳になる叔母が一人で四国に住んでいます。庭に作った小さな畑を耕して野菜を育てたり、習字をしたりして暮らしているのですが、その叔母の家にライブカメラをつけて、動きを感知したら映像をメールで送るようにしています。それを見ると、動作はゆったりしたもので、私なら 10 分で済むものが、1 時間位掛かっている様ですが、ちっともあわてる事が無いのです。皆が同じスピードで走るなんてことは、土台無理なことですし、必要も無いのですから、夫婦々ですね。

35 歳の頃に漠然と立てた生活設計があります。自分が定年になった時に、二人の子供の養育が丁度終わるというだけのものでしたがご多分に漏れず、二人とも浪人するわ、大学院に行って卒業しない等、計画通りに行かないことばかりです。気が付くと、子供が独立した後の、定年後の生活設計がまったく無いのです。子育ては、私の中では重大な目標だったのでしょうか。それとも、先に計画しない、ある道を選択する、性格故なのでしょう。今でも老後の生活設計を立てるでも無く漫然と過ごしています。人が生きる為に本当にやらなければならない事はそんなに沢山無いと思っていますが、1 つでも良いからやらなければならない事を持たないと、定年後の人生を生きていけない、とも思っています。

## 2. 夢

小学生の頃、6 歳離れた兄に、そんなことは当

たり前、と馬鹿にされた時に、世の中のこと全ては、当たり前で、今当たり前で無いことを当たり前にするために学問があるのだ、と反発しておりました。

会社でよく言われるのは、その仕事は無くせないのか、減らせないのか、変えられないのか、です。次元は違いますが、会社の仕事には当たり前が無いと、言うことでしょうか。

昨今の「当たり前」は、ある時代のある者にとっての行動を理屈無しで納得させる為の方便のようで、どうも記録にも残らない、その場限りのルールのようなのです。

安全標語の ABC 「A～当たりのことを B～ぼんやりしないで C～ちゃんとやろう」、こうなると何が何やら分からなくなってしまいますね。

息子が、南極探検に行っています。子供の頃、本で読んだあの白瀬中尉の南極探検ですよ。いつ頃だったでしょうか、南極に行きたいと言うのを聞いて、夢みたいな話だと思っていたのですが、あれよあれよと言う間に第 47 次南極地域観測隊員になれたのです。

南極のホームページで昭和基地の情報を見ることが出来ます。女房の友達が、極地の情報が身近に取れるのに、大阪、九州の子供達の情報は無しのつぶてで寂しいと漏らしていたそうです。極地といえども衛星を使ってメールや情報の交換ができる、これも情報通信技術の発達のおかげですよ。息子の話になってしまい恐縮ですが、時代や立場で変わってしまう当たり前を見間違わない様にするのは、自分の夢と意志なのかな、とたまたまうまく行った息子をみていて思っています。

死ぬことすら「当たり前」になった時代があったのですから、声高な常識論に惑わされないようにして、やらなければならないことを見つけようと思っています。寂しいけど、これも人生半ばになってやっと分かることなのでしょう。

南極のホームページ：<http://www.nipr.ac.jp/jare/>

### 著者プロフィール

S45 菱電サービス(株)入社

(現、三菱電機ビルテクノサービス(株))

S49 九州支社にて昇降機保守品質管理

S61 本社システム営業部にて、インテリジェントビルシステム販売企画

H03 横浜支社にて、昇降機モダンゼーション施工管理、現在に至る

# 異常気象に思うこと

石川 久 (昭 44 学 子)

南極上空のオゾンホール、北極海の氷結面積が大幅減、大ハリケーンや大台風の大発生。夏から秋にかけて、日本海では海水温度を上昇させ、エチゼンクラゲを大繁殖させた。1月になると裏日本のどか雪、4メートルも積もってしまった。驚



くことがたくさんある。毎日、我が家と会社までを往復しているだけだと気がつかないが、新聞を見ていると、異常気象にかかわる情報が飛び交っている。異常気象の原因は何なのだろうか？よくわからないから、勝手なことが言えるし言い放題で、たいした問題にならないと考える。

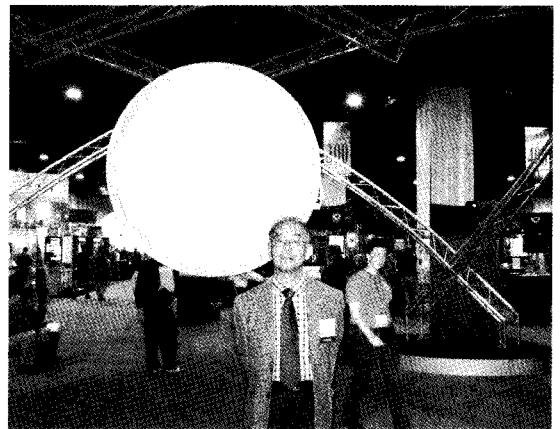
太古の昔から太陽から注がれるエネルギーしか地球には入ってこない。また、宇宙から入ってくるエネルギー量と宇宙へ発散されるエネルギー量が変わらないとすれば、隕石が地球と衝突して攪拌したように、誰かが地球内のエネルギーを攪拌しているのだろうか。

羽越線特急の脱線事故、JR「またやったか！」ぐらいにしか、新聞を読んでいなかったが、一月末になって、「原因はマイクロバーストか？」という新聞の記事を読んで、レーダーという物づくりに携わったことがある私は電撃的なショックを受けた。数分単位で発生した急変する急激な下降気流が地面に衝突して水平に発散流となり、重い車体を軽々と持ち上げてしまう自然の力が、脱線に導いたことになる。マイクロバースト、ウィンドシェアの発生は飛行機事故につながるということで、主要空港周辺の風雨を伴う気流の状況をリアルタイムに捉え、空港管制に使用するために、気象ドップラーレーダーを配備している。主要空港の滑走路近くの 10m ぐらいの大きな白いレドームがそれである。この技術を利用し、予知できれば羽越線の脱線事故も防げたのかもしれない。

ご存知のようにレーダーは空間を使って、送信波を基準として、反射波の振幅と位相を信号処理することによって目標の大きさと距離を計測する機械で、第二次世界大戦中に発展した。気象ドッ

プラーレーダーのドップラー計測などの信号処理は、今まで時間領域で処理されてきたが、最近は、二次反射波や地形反射信号などの不要波を排除するため、時間および周波数領域の処理の特徴のいいところ取りにより、リアルタイムに計算している。

本年、2月2日に米国気象学会がジョージア州アトランタ市で開催され、気象学会に1日だけ立ち寄る機会があった。会議には参加できなかったが、新聞報道等によると、地球温暖化現象と竜巻あるいはハリケーン発生数に相関関係があるのではないかと等発生メカニズムに至るまで、熱心に議論されたとのことである。日本からの参加も含んで世界中から、約2,200人の気象のエキスパートが集合したとのことである。



写真は会場となったジョージア・ワールド・コンgressセンター内の展示風景を示すものである。背景のブースでは地球のスケールモデルを使って、静止衛星から撮った地表の雲の様子をコマの早送りして見せていた。

今後、異常気象が、どのように我々の生活に係わり合いを持つのか不明であるが、我々の子孫が永続するために、気象現象を監視し、そして予測・予防するシステムが開発できる環境を育む必要性を感じるのも、年を取ったということなのだろうか。

## 著者プロフィール

昭和 44 年 4 月 日本無線株式会社入社  
昭和 44 年 8 月 三鷹製作所特機技術部勤務  
平成 5 年 4 月 同特機技術課長  
平成 11 年 4 月 特機事業部レーダ技術部長  
平成 14 年 6 月 特機事業部長

入社後これまでに、防衛用地上レーダおよび無線機の技術開発に従事。

## 昭和基地で2度越冬 電離圏観測で成果

独立行政法人情報通信研究機構  
(略称:NICT)

研究推進部門 統括

五十嵐喜良氏 (昭 47 学子)

〔編集部から〕

越冬隊員として 19 次及び 23 次の 2 度、南極大陸昭和基地に派遣されて、電離圏の観測に成果をあげ、現在は情報通信分野における日本と海外諸国主要研究機関との研究協定とか人材交流など国際連携のために飛び回っている五十嵐喜良氏にスポットをあてました。日立で同じ研究室に籍をおいて卒業研究した同期の鈴木想一氏 (現 ISID テクノソリューションズ代表取締役社長) にインタビューをお願いいたしました。

\* はじめに現在の勤務先についてご紹介をお願いします。

### 【NICT について】

独立行政法人「情報通信研究機構」(NICT: National Institute of Information and Communications Technology) は、平成 16 年 4 月に、独立行政法人通信総合研究所 (CRL) と認可法人通信・放送機構 (TAO) が統合され、新たな独立行政法人として発足しました。NICT は、来るべきユビキタスネットワーク社会を支える情報通信技術の研究開発を基礎から応用まで一貫した統合的な視点で行い、併せて情報通信分野の事業支援等を総合的に行うために設立された日本で唯一の公的な情報通信に関する研究機関です。詳しくは、<http://www.nict.go.jp> をご覧ください。

\* どうして南極越冬隊に参加することになったのですか？

### 【電離圏観測衛星の開発で南極越冬隊員へ】

昭和 49 年に、NICT の前身の郵政省電波研究所 (RRL) に入所した当時は、日本の実用衛星第一号の電離圏観測衛星 (ISS-b) が成功し、日本の宇宙開発の実用化にむけて大きく前進した時代です。入所して最初に配属された電波予報研究室では、将来の電離圏観測衛星に搭載する計画の符号化パルス方式の電離圏観測装置の開発を担当し、レーダーによる電離圏の観測にたずさわることになりました。

電離圏観測をやっていた関係で、第 19 次南極地域観測隊員の電離圏定常観測担当として、南極越冬隊に参加することになり、1977 年 11 月に、

南極昭和基地に向かいました。私の研究課題は、電波によるオーロラの観測でした。既存のオーロラレーダーという VHF 帯のレーダーを、オーロラの動きを捉えられるよう改良し、昭和基地に持ち込み、ロケットとオーロラレーダーとの同時観測などに挑戦し、電波オーロラと光オーロラとの関係、極域の電離圏擾乱に関する新しい知見を得ました。当時の電波研究所は、郵政省に属していたことから、越冬中は、昭和基地内の郵便局長として、切手の販売、郵便物の引き受け業務をやったことも、面白い経験でした。

\* 南極越冬隊員の経験がどのように活かされましたか？

### 【南極オゾンホールとの出会い】

最初の南極越冬観測より帰国して間もなく、中層大気国際協同観測プログラムという計画 (MAP: Middle Atmosphere Program) に参加するため、高空間分解能のオーロラレーダーを開発しました。このレーダーを持って、第 23 次南極地域観測隊員として、再度、昭和基地に行くことになりました。この越冬中の 1982 年に、気象研究所の隊員がオゾン全量の通年観測を実施し、南極オゾンホールの発見につながるオゾン全量の大幅な減少を発見しました。発見後間もなく、南極でのオゾン全量の減少について、米国の研究者によりオゾンホールという名称をつかって発表され、一般にも大きく注目されることとなりました。

この越冬中のオゾンホールとの個人的な関わりが、アラスカプロジェクトとよばれる新規プロジェクトの構想を練るのに大いに役に立つことになります。南極より帰国後、ドイツのマックス・プランク超高層大気物理学研究所の客員研究員として、1 年間、北ドイツの小さな町で共同研究する機会に恵まれ、越冬中に取り組んだオーロラレーダーによる極域の電離圏 E 領域の精密観測に関する成果を発展させることができました。この留学中に、国際的に活躍する研究者と知り合うことができ、将来の国際協力活動の人脈作りの機会ともなりました。

\* 電離圏観測は今でも行われているのですか？

### 【観測ネットワーク化と無人化への取り組み】

電離圏は、太陽からの紫外線を受けて地球の大気が電離して形成された高度約 60km から 1000km に広がる電波を反射する領域です。スペースシャトルの活動高度は、高度 300km です。電離圏の中で有人宇宙活動をしていることとなります。電波の伝わり方に密接な関係があるため、総務省の独立行政法人である NICT の所管事項となっています。NICT が、稚内、国分寺 (東京都)、山川 (鹿児島県)、沖縄及び南極昭和基地の 5 箇所で、15 分毎に観測し、世界の各国のデータセンターとデータ交換を行っています。電離圏

が乱れると、衛星通信、航空機の通信、漁業無線、短波通信・放送などに電波障害を発生させます。この電波障害の原因となる電波の伝わり方の異常現象の発生の予報や警報を、電離圏観測データや太陽観測データ等に基づき、インターネット等で常時発信しています。



私が、郵政省電波研究所に入所した当時は、35mm フィルムにデータを記録していたため、毎日現像処理することが必要でしたが、徹底した省力化を図るため、電離圏観測装置のデジタル化とネットワークを利用したデータ交換システムの開発が最重要課題であり、情報通信技術の進歩への迅速な対応、補正予算なども活用し、完全自動化を達成し、電離圏観測所の無人化、ネットワーク化を実現しました。この観測データは、一般公開されており、電離圏世界資料センターのホームページ (<http://wdc.nict.go.jp/index.html>) で見ることができますので、一度ご覧ください。また、電離層の諸特性や電離層を突き抜ける電波の臨界周波数の 11 年分の月平均値のデータは、理科年表の地学の部にでています。私は、電離圏データの責任者を務めていた関係で、国立天文台から理科年表編集委員を委嘱されており、10 年以上理科年表の編集委員を務めています。皆さんも、一度、理科年表を手にとってみてください。面白いデータとめぐり合えると思います。

**\* 電離圏研究の内容と成果をお聞かせ下さい。**

#### **【電離圏観測から地球環境の研究に】**

ドイツから帰国後、電離圏に関わるプロジェクト起こしをやろうとしていたころ、地球環境への関心が高まり、北極圏にあるアラスカでの地球大気環境の観測に関する研究プロジェクトの予算の獲得に成功しました。このプロジェクトでは、地球環境保全に寄与するために、アラスカ大学の地球物理学研究所と共同で、フェアバンクススの近くにあるロケット発射場のポーカーフラットで、最先端の電波・光センサーによる北極圏の大気総合的な観測を行いました。私は、電離圏の下部に位置する高度 60~100km の下部熱圏や中間圏と

呼ばれる大気の運動（風）を測定する分反射レーダーの開発を行い、山川（1994 年）、稚内（1996 年）で予備観測を行い、1998 年 10 月にアラスカのポーカーフラットでの観測にこぎつけました。この分反射レーダーによる観測結果を、外国の研究機関で運用する南極、北米や北欧でのレーダー観測による観測データと比較することにより、グローバルな大気波動（大気潮汐波やプラネタリー波といわれる長周期の波動）に関して、南北半球での非対称性、緯度特性や年々変動特性などの新しい成果が得られました。

**\* ところで、南極との交信で新聞記事になったと聞きましたが？**

#### **【昭和基地との交信、越冬隊でのエピソード】**

情報通信研究機構（NICT）は、毎年、創立記念日の 8 月 1 日の前後に、施設の一般公開をしています。2003 年には、南極昭和基地に、インテルサットの衛星地球局が設置され、日本と常時接続されました。NICT の施設公開のイベントとして、昭和基地での南極観測の紹介のため、昭和基地と NICT を衛星通信で接続したイベントを企画しました。生中継のシナリオとして、1982 年に越冬した時に、交流した三鷹の羽沢小学校の先生と児童（当時：小学校 2 年生）を招待して、昭和基地と TV 会議システムで交信してもらうことにしました。朝日新聞の中山記者も越冬しており、この企画に参加してくれました。この中継の時に、私は、もう無くなっていると思っていた、羽沢小の児童が 22 年前に書いた「ペンギンへの手紙集」を、中山記者が昭和基地の食堂で見つけてきて、衛星通信で、南極・昭和基地と交信した時に見せてくれました。これは、私のシナリオには無かったので、大変驚きました。この時の様子は、2003 年 10 月 10 日の朝日新聞の東京版に、22 年前 隊員に「ペンギンさんに届けて」南極への手紙と再会三鷹・羽沢小の当時の児童・担任 基地と交信という見出しで取り上げられました。私は、第 23 次南極地域観測隊員として昭和基地で越冬中は、新聞当番をやっていました。アマチュア無線で、小学校の子供たちがペンギンに手紙を書いているという話を聞いて「三鷹の小学校 2 年生がペンギンさんにお便りを書いたそうで、先生もびっくり。24 次が持ち込むので、ペンギンに日本語を教えるのが急務」と、第 23 次越冬隊の有志が昭和基地で発行していたガリ版刷の新聞「ペンギん 23」に書いたのがきっかけでした。

今年は、日本の南極観測 50 周年記念にあたり、上野の国立科学博物館で特別展「ふしぎ大陸南極展 2006」（2006 年 7 月 15 日—9 月 3 日）があります。南極について知る良いチャンスですので、ぜひご覧ください。

（次頁下段 ★印へつづく）

## 支部めぐり

# いわき支部の今昔

支部長 佐藤 博 (昭33学電)

東京支部の皆さん今日は、貴支部の会報で当支部の紹介をしてくださると言うことですので、乱文ですが思いつくまま記してみます。

当支部は、昭和60年(1985年)8月に設立されました。会員名簿に登録されている会員数は約250名の小さい支部です。内訳を見えますと、会員4名以上を擁する企業団体等は9社で90名が所属しています。3名以下の企業等に所属している人と自営業等の人は40名で、残りの120名はリタイア組か総会案内を出しても返事のない人々です。

総会は毎年9月に開催しておりました。しかし、年度の半分が経過してから新年度の事業計画や予算案を審議するのも如何と言うことで、今年度は6月初旬に開くことにしました。総会出席者は、設立総会こそ70名の参加を見ましたが、減少傾向が続く近年は30名台から40名台の参加になっております。総会は、議事と講演と懇親会で構成されております。外部講師による講演は、費用もかかることと的を射ない内容のものも出てきて評判の悪いものもありましたので、回数を減らし、会員による体験談等を増やす方向に梶を切り替えようとしております。

支部事業として、公共施設の見学会等を実施したことがありますが、参加者が少なく途中で消滅



してしまいました。会報『研鑽』は毎年発行しています。今までは総会時に配布しておりましたが、9月に発行し6月の総会、9月の会報発行と2回は支部の存在を認識して貰おうと算段しています。

平成14年度より同好会を発足させました。ゴルフ、囲碁、ガーデニング、ハイキング、麻雀の5サークルが成立しましたが、現在活動しているのはゴルフと囲碁のみでガーデニングは解散、ハイキングと麻雀は休止の状態になっています。

22歳から80歳代までと年齢幅が広いこと、年代による同窓意識の濃淡の差、高齢者層の増加、競争社会に対応するために業務の密度の上昇等種々の要因が絡まって支部活動は低調です。同窓意識を高めるために支部会則の改正を役員会に提示しています。職域分会と地域分会を会則の中で明文化することによって組織化を図ると言うことです。160名が職域分会に属さないと言うことで縦の連携も横の連携も無いまま(現在も)では困るので会員居住地を幾つかに分けて地域分会を作り、支部活動の単位としたいと考えています。役員会がどのように判断するか不明ですが、今年度いっぱいをかけてその他の提案も含めて検討して行くように考えています。何か良い方策でもありましたならお教えいただければ幸いです。

貴支部のご発展を祈念申し上げまして、支部の紹介を終わらせていただきます。

## 著者プロフィール

昭和33年4月	常磐炭礦(株)入社、
昭和46年4月	同社閉山のため退職
昭和46年5月	常磐興産電機工(株) (現 常興電機(株))入社
平成16年6月	同社退職、現在に至る

★ (前頁からつづく)

\* 最後に現在のご活躍内容と今後の抱負をお聞かせください。

### 【国際連携活動】

現在は、国際連携に関わる仕事をしています。具体的には、NICT と、欧州、アジア、北米などの情報通信に関する主要な研究機関と研究協力協定を結んだり、人材交流を促進することにより、研究開発を、効果的に推進することです。昨年は、中国科学院、中国情報産業部電信研究院、フランスやインドの国立研究機関などの包括的な研究協力協定を結ぶなど、情報通信分野における研究開発の国際的な連携を進めています。

今後、これらの研究機関との共同研究や公的機関や民間との研究協力の具体化などの諸課題に取り

組んでいきたいと考えています。

### インタビュー後記

大学時代は半導体研究室で一緒でしたが、大阪大学大学院に進学されたことは知っていました。ある時、テレビ放映の画像の中に南極越冬隊員として参加している彼の姿を見て、すごいことをしているなど驚いたことを今でも鮮明に覚えています。温厚実直で国際的に活躍している日本を代表する紳士の一人です。地味ではありますが世界的な電離圏研究の第一人者を同窓の友人に持てたことは私の誇りです。今後益々のグローバルな活躍を祈念致します。

鈴木想一 (昭47 学子) 記

# 「伊能忠敬」 雑稿

加藤 巷児(昭20専精)

最近では、伊能忠敬の名を知らない人は少ないだろう。

日本ウォーキング協会、朝日新聞社他、土地家屋調査士、測量設計業協会の各連合会および伊能忠敬研究会などの実行委員会の下、忠敬が、かつて測量に



歩いた日本の道を、「伊能ウォーク」本部隊員17名が1999年1月25日から2001年1月1日までの2年間をかけて、11,030 km歩いた。本部隊員の他各地の参加者を含めると17万人以上の人々を動員したことになる。

また、2001年3月に、伊能忠敬研究会の当時の代表理事渡辺一郎氏が、ワシントンの米国議会図書館で、伊能大図の写し207枚を発見、同年7月に公表され、各新聞紙上で一大センセーションを起こしたことを、ご記憶の方も多いでしょう。

忠敬の作成した地図の正図は、江戸城の火災で焼失したが、次の種類がある。

大図 (縮尺:1/36,000)	214枚
中図 (縮尺:1/216,000)	8枚
小図 (縮尺:1/432,000)	3枚

他を含めて400種類以上。大図の内欠図が7枚、あとは控図、写等で確認されている。

伊能忠敬は、延享2年(1745年)、上総の国九十九里浜小関村(九十九里町片貝)で生まれ、6歳で母を亡くし、入婿の父は離縁されたが、三治郎(忠敬の幼名)は10歳のとき父の下に戻った。

17歳のとき、佐原の伊能家に入婿となりその時から忠敬を名乗る。

忠敬は家業である、酒造業、運送業また米穀の売買を大規模に行い、天明の飢饉には、関西で大量の米を買いつけ、窮民に施した上江戸で売り、大きな利益を上げるなど、家業を成功させ、49歳で隠居、息子の景敬28歳に家督を譲り、江戸に出る。

江戸で、天文・暦学を志し、19歳下の幕府天文方、高橋至時(よしとき)に入門。

至時は大阪にいて、天文・暦学の当代随一の暦学者麻田剛立に学び、俊才と謳われていた。寛政の改暦のため、師の麻田に代わり、幕府に召し出され、旗本の天文方に抜擢された人物で、忠敬は終生の師として仰ぐ。

至時に師事していた忠敬は、暦学解明のため地球の大きさが問題になっているのを知り、自宅の深川黒江町から浅草の暦局までの距離を歩測で測り、子午線上の1分の距離を、1,636mと計算したが、至時からは、短い距離では誤差が大きくなるから駄目で、もっと長い距離で行えば一と言われ、蝦夷地測量の計画が練られたという。

忠敬は寛政12年閏4月19日(1800年6月11日)、内弟子3人従者2人を共に殆ど自費で蝦夷地測量に出発した。(忠敬56歳)爾後、第二次・本州東岸、第三次・羽越、第四次・尾張及越前以東、第五次・紀伊半島・瀬戸内の島々・中国沿岸、第六次・四国沿岸・大和路、第七次及び第八次・九州、第九次伊豆七島、第十次・江戸府内と、文化13年10月23日(1816年12月11日)に全国測量を終えた。測量日数3,753日、その距離40,000kmという。

第四次までに作成した地図を、江戸城で、当時の将軍家斉の上覧に供され、忠敬は小普請組に登用、幕臣となり天文方に出向、以後幕府直轄事業となった。

第二回測量後に忠敬が算定した緯度1度の距離は28.2里、1分に直すと1,845.53m(誤差は0.2%)。

忠敬は文政元年(1818年)73歳で没したが、残された関係者の手で地図が完成。49歳までは家業を發展させ功成り遂げ、更に天文・暦学を志し、日本全国の測量を行い地図を完成させた。その地図の正確さから、一部は昭和の時代まで利用され続けた。

人生を二度生き、ともに功成り遂げたことは、現代の我々の人生にとっても大きな師といっても過言ではないだろう。

## 著者プロフィール

卒業即失業。10年余町工場現場で働き、その後某重工業に就職。設備計画、工場計画を担当。関連会社に移り、電力会社の揚運炭設備のエンジニアリングを担当をして定年を迎え、その後も数社に勤務し、2005年から「老後」に入る。伊能忠敬研究会会員。

# 私の支部総会初参加体験記

伊東庸子（昭 62 学電）

昨年 6 月の雨の昼下がり、初めて多賀工業会水戸・勝田支部総会に出席しました。

その折、同席されていた東京支部の三本木さんに本誌の原稿執筆を依頼され、盛り上がった雰囲気のかなああまり考えもせずお引き受けしてしまい、今こうしてパソコンをいじっております。



◆ 今ごろになってなぜ「初めての参加」なのか  
総会開催のご案内は卒業後、支部会報で何度もいただいております。でも実際出席にいたるまでに 10 年以上もかかってしまいました。

まずひとつは、休日をプライベートに当てたかったという私のわがままからです。「蝶よ華よ」の独身 OL 時代はウィークデーにため込んだストレス発散に、結婚後は子供を中心とした家族のふれあいと少なくとも 30 代後半くらいまでの土・日は私にとって本当に貴重な休みでした。

そしてもうひとつはやはり「若輩者の私が・・・」という遠慮からでした。手元に届いた会報を手に取り開くとそこには、そうそうたる肩書きと立派なご経験をお持ちの先輩方の達筆な文章が・・・。先だって母校卒業後、社会で活躍されて実績を作り、そしてリクルート活動に道筋をつけてくださった先輩方は私たちにとって、尊敬に値する存在です。本当は「直接お話を聞いてみたい」という気持ちがありながら、どうしてもその 1 歩がなかなか踏み出せないのです。

出席できない理由は人それぞれでしょうが、私の場合はおよそこの 2 つだったと思います。

◆ 「初参加」の後押しをしたものは

それでも 2005 年度の総会に「よし、今年行ってみよう！」と決意させたものは一体なんだったのでしょうか。白状すると特別企画として茨城県クッキングスクール協会会長である根本悦子先生の講演会があったからです。「健康な毎日を過ご

すために、普段からどのような食生活を送るべきか」と「食育」を中心に指導されている根本先生はここ茨城ではかなり有名な方で、生活クラブ生協の理事として活動している私から見てこの企画は大変魅力的なものでした。実際講演内容も興味深いお話をわかりやすく説明され、とても勉強になりました。

このように今回は特別企画内容が私の興味対象と一致したため、当日は夫に子供二人の世話を頼み込んでまで、参加の意志を固めたのでした。大勢の会員の趣味・志向はまさに千差万別ですので、総会との同時企画についてはあらゆる方面を向いて練り上げることが肝心かと思います。

◆ 「支部総会」全体の感想は・・・

出席してよかったと思っています。まず昨年度支部の活動報告、会計報告がなされ、確認。次に今年度の活動計画案を会員で承認し合いました。担当委員の方々の事前準備を思うと、本当に頭が下がります。ご苦労様でした。

特別企画の講演会については前述のとおりで、大変満足できる内容でした。

そしてお楽しみの懇親会。おいしい食事とお酒で、時事評論から世間話まで先輩方と楽しく懇談できました。なお不謹慎を承知で書かせていただきますと、年齢分類上「オバさん」というカテゴリーでくられるようになって以来、こんなにモチモチだったのはまさに久しぶり！ 帰りは夫に会場まで迎えに来てもらったのですが、車中ひとりでニヤニヤしどおでした。

♥ 次回はぜひ総会へ足を運んでみませんか？

参加したことのない会員の皆さん、食わず嫌いはもったいない！先輩会員と出会うことで、また新たなチャンスが生まれるかもしれませんよ。

## 著者プロフィール：

1987 年 電気工学科卒業

筑波大学院進学

1989 年 (株) 日立製作所日立研究所入社

1995 年 出産退職

現在「生活クラブ生協茨城」理事。

# # ♪ ♪ ♪ 私の合唱歴 # ♪ ♪ ♪

溝口 知昭 (昭32学機)

## ♪ 一生の思い出

# ヒットラー総統がドイツ帝国の威信をかけて建設したベルリンのオリンピックスタジアムを埋めた3万人の大観衆は、遙々極東の日本からやってきた私達男声合唱団「東京リーダーターフェル1925」（以下ターフェルと略記）が合唱ファンファーレ「Grüß Gott!」（こんにちは）の演奏を終えると嵐のような拍手と大歓声と共に床を踏み鳴らして会場の大鉄傘を揺るがせた。'76年6月12日西ドイツ合唱連盟により開催された西ドイツ連邦合唱祭で私達の舞台が開幕した時の事である。合唱を初めて今年で60年、数えきれないくらい舞台で演奏したがこの時に勝る感激と興奮をした事はなく今後も二度と経験することは無いだろう。私が舞台上で演奏する時必ず思い出す一生の思い出となった。

## ♪ 若年時代

# '46年旧制帯広中学2年の時級友と合唱部を創立し、講堂の片隅で練習を始めたのが事始めて、その後'62年まで合唱活動は続いたが、紙面の都合によりこの時代のことは割愛する。

## ♪ ターフェル時代

# '74年業績不振で経営危機に瀕した信井電機工業(株)に挺子入れするため、日立製作所本社の鶴沼営業部長が常務取締役として出向してきた。鶴沼常務は着任早々私が学生時代に合唱経験が有った事を聞き出し、社員の連帯感を強固にし、沈滞ムードを一掃するため、合唱団の編成を命じた。

「男声と女声の2部合唱から始めましょうか」と伺いをたてると「女なんか入れるな!男声4部合唱をやれ」と一喝された。常務命令とあって30人近く集まった

楽譜も読めない男子社員に、口写しでウエルナー作曲の「野ばら」等の曲を教え、社内行事や日立グループの催物の舞台上で演奏した。男声合唱は他社に無く絶賛を浴びた。

b この年の10月私は常務に従い、山水樓で開かれたパーティに出席した。これは常任指揮者の荒木宏明先生(東京芸大を卒業後オペラ歌手として活躍)の指揮20周年を記念して、夕刻ターフェ

ルが開催した演奏会の打ち上げパーティで、常務は私を「うちの会社の溝口です。次の練習から行かせますから宜しく」と荒木先生に引き合わせ、先生は仰天する私に「どうぞ、どうぞ、いらっしゃい」と声を掛けられた。私は20年以上ブランクで全く自信がなく困惑し「俺は間違いなく厄年だな」と変に自分の干支を納得した。

# 東京リーダーターフェル1925は'25年に創立された東洋最古の社会人合唱団で、全日本合唱コンクールで3年連続優勝したのを始め、毎年上位入賞を果たしていた。合唱仲間ではその名を知らぬ者はなく、私など入れるわけはないとしか思わない雲の上の存在だった。終戦まで朝のラジオ体操が始まる前に放送された「ブンブン荒鷲ブンと飛ぶぞ」の曲は団員だった故東辰三氏の作詩作曲でターフェルがレコーディングしたものである。

b 鶴沼常務は日立の本社、工場で終戦後隆盛した職場コーラスを経て'57年ターフェルに入団し、'68年の第1回訪独演奏旅行プロジェクトとして、自分は参加できなかったが、旅行を大成功させた。'75年ターフェルは創立50周年を迎え記念演奏会を開催し、翌'76年2回目のドイツ演奏旅行を執行する事になった。私は空調部長として繁忙期にぶつかるので参加は許される筈がないと思っただが、一応願い出た所思いがけず許された。最初で最後の訪独演奏旅行が出来た。常務は出発前私を呼んで「今回も私は行けないがこれを持って君が代わりに行って来い」と常務が前回用意した白い制服を渡された。立場上参加出来ない無念さが察せられ、私が気兼ねなく旅立てるよう気遣った言葉は私の胸に沁みだ。

# '95年シルバーエイジの合唱の旗頭を依頼し、ターフェルの60歳以上のOBと現役会員で男声合唱団「リーダーターフェル・ジルヴァーナ」を結成した。昨年第10回シニアコーラス・



2006-3-3 第11回で熱唱する著者。前列ピアノ奏者の左側

東京・フェスティバルで最優秀賞厚生労働大臣賞(3回目)となり、これまでに優秀賞の東京都知事賞を2回受賞し、入賞の翌年は特別出演で全回出場している。昨年12月8日には難民救済募金に協賛してJR東京駅丸の内北口で開催された東京駅コンに出演した。今年は7月に都合合唱祭に連続8回目の出場をする他、例年のごとく都内各所の老人介護ホームで演奏会を開催する予定である。

# 平成17年度会費納入者

(敬称略、順不同)

(平成18年4月30日までに納入された方)

\* 会費ご納入有難うございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕の上、ご連絡下さい。未納の方はご入金をお願いいたします。  
Tel & FAX 045-891-2232(本名簿作成者:兼子)

氏名の前の□は平成16年度以前分も同時納入の方で中の数字は繰上年数を示します。

氏名の後の○は平成18年度以降分を同時納入もしくは既納入の方で中の数字は前納となる年数を示します。

昭16専機 森本 裕	昭20専機 岡本 公夫	昭23専原 藤原 健之輔	昭28学機 高田 丈夫
昭16専原 小川 義夫	昭20専原 海老原 謙次郎	昭23専金 相澤 力	昭28学機 小白井 和典
昭16専原 佐野 健蔵	昭20専原 友保 伊弘	昭23専金 菊地 秀利	昭28学原 柳沢 裕
昭16専原 林 義雄	昭20専精 山田 初太郎	昭23専電 塩野 譲	昭28学原 山口 茂男
昭16専精 浅田 敬二	昭20専精 田島 廣一	昭23専電 保坂 昭三	昭28学電 稲見 孝
昭17専機 大野 三知雄	昭20専電 大関 純	昭23専通 荒川 宣夫	昭28学電 近江 義勝
昭17専機 岡崎 幸晴	昭20専電 加藤 慶祐	昭23専通 岡山 保男	昭28学電 玉川 信二
昭17専機 田邊 邦行①	昭20専電 □金原 正	昭23専通 馬場 昭	昭28学電 橋本 久美
昭17専原 楠木 正	昭20専電 柴田 信夫	昭23専通 松沢 清次③	昭28学電 □藤田 史郎
昭17専金 田邊 良美③	昭20専電 都築 久一	昭23専通 森尻 茂	昭28学電 中原 太平
昭17専金 依田 連平	昭20専電 堀毛 一彦	昭23専舶 森 栄一郎	昭28学金 赤城 清
昭17専電 小林 幹	昭20専通 山本 奎兵衛	昭23教電 斉田 耕平	昭29学機 雨澤 道雄
昭18専機 菅原 庄一②	昭22専機 小亀 秀郎①	昭23教電 千野 吉治	昭29学原 石橋 弘
昭18専機 宮崎 至誠	昭22専機 佐藤 喬太郎①	昭24専機 小林 長和	昭29学原 大久保 半吾
昭18専機 山本 栄治	昭22専機 富山 栄	昭24専機 白土 四男	昭29学原 奥野 真治
昭18専精 立枝 茂男	昭22専機 乗 智成	昭24専機 若林 麟介	昭29学電 森 章太郎
昭18専金 市島 健男	昭22専機 立花 浩	昭24専精 鳥山 尚利	昭29学金 照沼 清
昭18専金 山田 実	昭22専原 □石川 義男	昭24専精 平木 康一	昭30学機 佐藤 久弥
昭18専電 関根 宗一	昭22専原 植田 英	昭24専電 白石 壽男	昭30学機 松沢 勝海
昭18専電 八角 方二	昭22専金 明石 和夫	昭24専電 前川 信雄	昭30学原 石川 英二
昭18専電 北條 英雄	昭22専電 野坂 賢司	昭24専通 戸木 禮一	昭30学原 鈴木 日出男
昭19専機 大和田 光徳	昭22専通 菊地 契吉	昭24専舶 小峰 弘	昭30学電 阿部 哲
昭19専機 掛川 宗三郎	昭22専通 幸道 貞一	昭24専舶 杉山 六郎	昭30学金 黒沢 正蔵
昭19専原 川尻 悦三	昭22専通 小塚 潔	昭24教機 福地 三郎	昭30学金 三本木 武
昭19専原 朽本 二郎	昭22専通 鈴木 潔	昭24教電 浦井 猛	昭31学機 早乙女 保二
昭19専原 藤田 勲①	昭22専通 中村 弘	昭25専原 忍田 邦夫	昭31学機 横山 亨夫
昭19専精 小泉 篤	昭22専通 林 猛雄	昭25専電 高橋 清	昭31学機 新田 和夫
昭19専精 □白石 精	昭22専通 平林 立	昭25専電 村山 錦右	昭31学原 瀬在 城雄
昭19専精 橋本 良夫	昭22専通 丸川 武志	昭25専通 川野辺 勉	昭31学原 山崎 慎一郎
昭19専精 林 栄	昭22専通 今井 俊夫	昭25専通 高橋 章	昭31学電 大内 孝
昭19専精 渡辺 益男	昭22専通 保坂 博	昭26専原 永山 正美①	昭31学電 藤川 俊明
昭19専精 柳田 裕美	昭23専機 内山 哲夫	昭26専原 渡邊 貢	昭32学機 □伊藤 義次
昭19専精 柴 敏夫	昭23専機 梅田 政夫	昭26専精 関内 正	昭32学機 川又 俊夫
昭19専精 飯田 栄三	昭23専機 照沼 美知夫	昭26専通 菊地 玲二	昭32学機 柴田 勇治
昭19専電 □関口 利男	昭23専機 難波 靖治	昭26専舶 井坂 孝	昭32学機 溝口 知昭
昭19専通 □飯村 亮三	昭23専原 飯島 公正	昭26教電 境井 繁夫	昭32学原 矢野 睦男
昭19専通 酒井 忠光	昭23専原 名島 龍雄	昭28学機 関 英雄	昭32学原 榊原 康夫

昭32学電	田口 嘉男	昭37学電	上田 正雄	昭38学電	坂野 栄	昭42学金	小菌井 健①
昭32学電	田崎 耕八	昭37学電	佐藤 栄一	昭38学電	橋 弘	昭42学化	井藤 紘
昭32学電	山下 正明	昭37学電	田北 嵩晴	昭38学電	寺内 賢一	昭42学精	下ノ村 勇
昭32学電	①山田 俊男	昭37学金	篠原 康祐	昭38学電	広瀬 行一⑤	昭42学精	山本 蕃
昭32学電	渡辺 英雄	昭37学金	橋本 善巳	昭38学金	藤田 靖夫	昭43学機	西田 裕
昭32学電	小室 秋生	昭37短機	白川 勇一	昭38学化	大塚 進①	昭43学電	山田 莞爾
昭32学金	穂坂 邦光	昭38学機	河上 弘一	昭38学化	高木 二郎	昭43学化	池上 毅
昭33学原	吉久保 節男	昭38学機	小林 一	昭38学化	松浦 正明	昭44学機	①鈴木 善則①
昭33学金	三浦 陽	昭38学機	駒場 方耀	昭38学化	矢部 功一	昭44学子	五十嵐 幸治
昭33短電	①伊藤 誠二	昭38学機	桜井 衛	昭38学精	黒羽 昇	昭44学子	石川 久
昭33短電	佐藤 馨	昭38学機	佐藤 幸一	昭38学精	矢嶋 國男	昭44学子	武井 三雄
昭34学機	藤田 邦男	昭38学機	丹下 宏	昭39学機	笈 逸男①	昭44学子	常盤 浩央
昭34学原	粕谷 宏夫	昭38学機	寺門 章	昭39学機	小林 章夫	昭44学精	菊地 政行①
昭34学電	千葉 克男①	昭38学機	豊田 元雄	昭39学機	持田 幸武	昭44学精	山口 良治
昭34学電	森田 敏夫	昭38学機	中村 好秀	昭39学機	佐川 六郎	昭45学電	①永木 利夫
昭34学電	高野 史雄④	昭38学機	半田 守正	昭39学電	原 俊彦②	昭46学電	飯塚 英一
昭34学電	高橋 孝雄	昭38学機	牧山 永三	昭39学電	大原 広哉	昭46学電	狩野 守
昭35学機	高野 久弘	昭38学機	徳江 影英	昭39学金	入江 暢泰①	昭46学子	栗原 功幸
昭35学機	山口 宣之	昭38学機	大原 祥生	昭39学金	横山 安行②	昭46院機	岡本 和彦②
昭36学機	柏木 尚②	昭38学機	大原 節	昭39学化	小野 真	昭48学機	金子 芳久
昭36学機	上月 秀俊	昭38学電	今橋 富美男	昭39学化	大谷 義隆	昭50学子	②松田 実
昭36学機	笹生 右	昭38学電	大久 忠雄	昭40学機	熊倉 通	昭52学子	福田 光男
昭36学機	真下 知行	昭38学電	兼子 八郎②	昭40学機	菅谷 忠雄	昭53学電	水島 好彦①
昭36学機	森永 隆宏	昭38学電	後藤 紀夫	昭40学電	山崎 輝行	昭54学子	佐伯 豊
昭36学機	横山 馨	昭38学電	小林 渡	昭40学金	松本 二郎	昭54学精	鳥居塚 卓
昭36学電	小宅 仁②	昭38学電	①佐々木登喜夫①	昭40学化	高久 洋	昭55学子	山田 恭介
昭36学電	川松 正長	昭38学電	田川 政行②	昭40学化	森 俊和	昭56学精	松本 久幸①
昭36学電	佐伯 明良②	昭38学電	新沼 厚生	昭40学精	大泉 雅靖②	昭57学機	②水口 一郎
昭36学電	橋本 正直	昭38学電	橋本 政巳	昭40学精	寺 紘一	昭60学精	②豊福 秀敏
昭36学金	鈴江 芳雄	昭38学電	矢萩 久①	昭41学化	青野 潔	昭63学金	橋本 豊重①
昭36学金	高信 和明	昭38学電	熊谷 文男①	昭42学機	小森 廣樹	平07学電	鈴木 真②
昭36学金	松本 豊	昭38学電	高萩 隆司	昭42学機	菅谷 禎男①	平08院生	東 學
昭37学機	坪 弘	昭38学電	小島 淳	昭42学電	三橋 義宏	平16院電・子	根本 英次①
昭37学機	宮沢 信夫					合計	281名

## 平成16年度会費納入者

昭23専金 村山 昭平 昭25専精 加藤 達男

## 平成17年度寄付者名簿

昭31学原 山崎 慎一郎 50,000

平成17年度分と同時納入の方は、平成17年度会費納入者欄の氏名左側に数字入りの口印をつけて表示しています。  
(平成17年4月1日～平成18年4月30日まで)

ご寄付有難うございました。  
(平成17年4月1日～平成18年4月30日まで)

昭38学機 豊田 元雄 10,000

年会費納入のお願い : 添付の払込取扱票でお早めにご入金下さい。  
寄付の場合もこの用紙をお使い下さい。

## 囲碁同好会活動の推移

公認審判員 山下正明 (昭 32 学電)

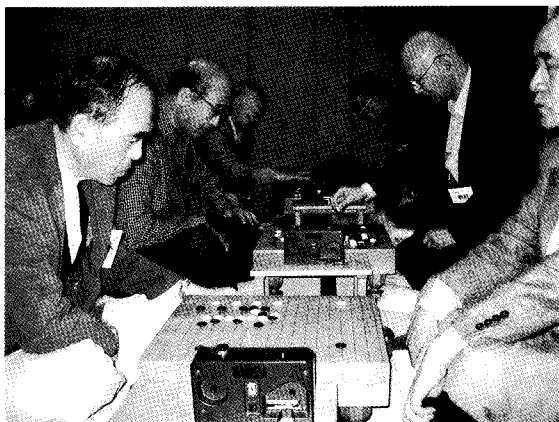
平成 12 年 2 月に 4 名が日本棋院に集まり第 1 回囲碁大会を開催したのが、東京支部の囲碁同好会の始まりです。小生日本棋院の普及指導員なので幹事として会の運営に取り組むことにしました。大会は 2・5・7・11 月と年 4 回定期的に日本棋院で行うことなどを決めました。第 3 回大会には 8 名の会員が参加し、また、第 5 回大会には 10 名の会員が集い大会を開くようになり、徐々に会員が増えてきました。そこで大会を円滑に運ぶため第 10 回大会から対局時計を使用するにしました。かくして囲碁同好会発足 6 年後の平成 17 年末には会員が 34 名までにになりました。

平成 18 年から幹事の若返りを計り、更なる発展を期すべく活動中です。今年に入り 2 月の第 25 回大会には 22 名が参加し、また 5 月の第 26 回大会には 19 名が参加されるという盛況を呈しています。対局は持点を 1 勝敗毎に 1 増減点するハンデ戦なので回を重ねるごとにシビアなハンデになり面白い対局となっています。特に第 26 回大会などは参加者 19 名中全勝者がなく優勝から 5 位

までが 4 勝 1 敗という接戦が展開されました。尚、順位はスイス方式に準じて決めております。また持点に基づいて段級位を決めており、現在は 4 級から七段までと幅広い層が形成されています。今後更に会員が増え益々盛況になることを期待したいと思います。

この記事を読まれた囲碁に関心のある方は棋力の如何を問いませんので、ぜひ当会に入会されるようにしてください。また、大会終了後は毎回近くの小料理屋で杯を傾けて楽しいひと時を過ごしています。

第 26 回大会対局風景 (於日本棋院 6 F 燦燦の間)



### 開催年別参加者の推移

開催年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
大会No.	1~4	5~8	9~12	13~16	17~20	21~24
参加者数	24	41	56	66	70	71

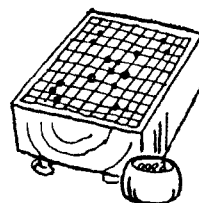
### 大会入賞者 (前支部会報第 8 号記載以降)

大会No.	優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位	7位	奨励賞
第 23 回	真下六	佐藤 1	兼子二	広瀬二	関 三	—	照沼四	穂坂初
第 24 回	兼子二	菅谷 2	上田三	新沼四	山下七	—	寺内三	関三
第 25 回	真下六	照沼四	佐藤 1	豊田三	菅谷 2	上田三	矢萩五	石川二
第 26 回	寺内三	豊田三	小白井二	関三	山下七	兼子二	新沼四	高橋孝三

(注) 和数字は段位・算用数字は級位を示す。

連絡窓口 幹事 新沼厚生 (昭 38 学電)

TEL 045-903-6766



# ゴルフ同好会

幹事 兼子 八郎 (昭 38 学電)

この同好会にも高齢化の波は押し寄せ、若手の同好者がなかなか増えない現状では、色々考えなければならぬ問題が生じてきたようです。

その一つはコース選定の問題ですが、どのコースを選べば参加者が多くなるかと言うことです。これまでゴルフコンペのコースには、ほとんどが神奈川県西部のどちらかと言えば静岡県よりが選ばれてきました。当部が平成12年に発足して以来、小田原城CC 4回、御殿場の太陽CC 2回、川崎国際生田緑地 3回、そして本年4月に第10回を初めて東京のコースの赤羽GCで行いました。平成15年頃若手有志がコース(地域)毎に大まかな費用を算出し、それに交通費なども勘案してみた場合の概略費用を比較検討してみたことがありました。結論は出せませんでしたが都心部から遠距離となるコースほどプレー費を安くし、食事費もそれなりに安くして、都心部からの客の招致にウェートをかけた生き残り作戦をしています。このような状況で幅広い地域から参加者

を募る場合には、場所を1ヶ所に決めないで、場所をまんべんなくばらまく形が望ましいことを示していると思われます。

一昨年5支部懇親ゴルフの当番支部となったとき、さすがに神奈川県西部地域では遠すぎるだろうと、会場を川崎に決めました。ここでさえ他支部の方々にはご苦勞であったようでした。

昨年10月小田原城CCを予定しましたが、応募者が少なく中止するはめとなり、年の瀬も押し詰まった12月13日(火)に川崎で行い、参加者は7名とごちんまりとしていました。

コース選定のもう一つの問題点としてかかげられるのが、アップダウンの問題です。体力が減少している人も多々あると見え、丘陵コースや山岳コースなどでは、たとえ乗用カートがあっても起伏が激しいと、きついと感じられるようです。

総合的には林間コースがもっとも同窓会向きなのかも知れません。赤羽GCでは埼玉県にお住まいの4人の方々の参加で4組となり、佐藤(喬)(23機)さんのニアピン賞が一際光りました。

連絡窓口 (入会歓迎です!)

兼子 八郎 TEL 045-891-2232

E-Mail [nyanko8686@hotmail.com](mailto:nyanko8686@hotmail.com)

H18.4.11 赤羽ゴルフ倶楽部にて参加者の皆さん(敬称略)



前列(左から): 山崎(28電) 佐藤(23機) 幸道(22通) 田北(37電) 近江(28電) 玉川(28電) 兼子(38電) 後列(左から): 上田(37電) 北島(39機) 森(40化) 佐藤(35機) 上月(36機) 山口(35機) 根本(38電) 石川(30原) 青野(41化)

# 写真同好会

会長 玉川 信二 (昭 28 学電)

東京支部写真同好会は隣の埼玉支部ワンダーフォトクラブに倣って、平成 15 年堀切菖蒲園で花の撮影会を実施したのを皮切りに、その後年に数回の撮影会を高尾山・上野動物園・川越などで実施しました。毎年年初の新年会では作品の批評を行いながら会員の親睦を深めています。

現在会員数は 12 名で、ほかに指導者として全日写連大宮支部の会長であり埼玉支部ワンダーフォトクラブの顧問でもある斎田氏 (昭 28 学機) が講師として撮影会に参加していただいています。斎田氏は日写連県コンテストや県美術展で特選・入選されたばかりでなく国際写真サロンでも入選されたベテランです。

昨年は鎌倉明月院での紫陽花撮影会を計画しましたが参加者が少なく中止しました。東京支部独自では撮影会の実施が困難であるため埼玉支部のワンダーフォトクラブの行事に相乗りし、10 月には奥日光での一泊撮影会に参加、また本年 4 月の岩槻での撮影会にも参加しました。

毎年の支部総会には会場入り口に会員の作品を数多く展示し好評を得ていますが、そればかりでなく外部の展覧会・コンテストにも積極的に応募しています。

会員の鈴木氏 (昭 30 学原) は埼玉県美術展に入選、第 9 回「花物語」で優秀賞を受賞しています。また会員の小林氏 (昭 38 学電) は全日写連神奈川県本部の本年 5 月例会に応募し入選しました。

今後の計画は 6 月 16 日に昨年中止した鎌倉明月院の紫陽花撮影会を、また秋 10 月頃関東北部の山の紅葉の撮影会を予定しています。埼玉支部からの呼びかけにも積極的に参加して行きたいと考えています。

現在は会員数が少なく、撮影会を計画しても集まらないのが悩みであり、支部会員の皆様がカメラをお持ちの方はどうぞ入会して撮影会に参加して頂きたいものです。撮影会の後にはいつも楽しい「反省会」が待っています。支部総会や後に述べる展覧会への出品には四つ切・半裁などの制限はなく、デジカメ写真を通常のプリンタで印刷した A4 サイズの台紙貼り付けでも結構です。

また茨城大学の前身の一つである旧制水戸高等学校の卒業生による美術展事務局から合同しての展覧会の提案を受けていますので、本年秋には「賛助出品」という形で実施することとしました。更に各方面の了解をとりつけ、来年春から正式に合同開催の美術展として発足させるべく、準備中です。これが実現すれば、毎年春秋に都内の一等地の赤坂溜池にあるビルの画廊で、本格的な展覧会を実施することができるようになりますので、ご期待下さい。

新年会に集合した会員諸氏 (敬称略)

左から 三本木 (30 学金)、鈴木 (30 学原)、玉川 (28 学電)、田崎 (32 学電)、小林 (38 学電)



# 山遊会

## 小宅 仁 (昭36学電)

平成17年度は、平成15年に細々と旗揚げしてから3年目の活動となりました。会員各位の熱心なご努力で少しずつ仲間も増え、元気が出てきたようにもおもいます。当年度は5回の山行を行い、内2回は登山と軽ハイクのコースを併設し、沢山の方々が夫々の感動を得られるよう企画してみました。登録会員もロコミ中心ですが、徐々に増えてまいりましたし、多様な参加の形態が定着できるかもしれない気配を感じております。発会の時点の、「家族も参加できる」会の運営が近付いてくるかもしれません。現在の登録会員数は33名で、内6名の方が家族又は会員の知人等になっております。以下に17年度の活動報告を致しますが、○数字は行事通算番号です。

### 1. ⑥ 箱根花見登山

浅間山(802.2m)・金時山(1,213m)

- ・ 4月9日(土)～10日(日) 1泊2日
- ・ 登山リーダー：田崎 耕八(昭32学電)
- ・ 参加者：9名(静岡から前田氏特別参加)

小田急沿線の爛漫の桜花を眺めながら箱根湯本駅に定刻(9:55)に全員集合。塔の沢口から浅間山に登る湯坂道の山桜はチラホラと咲きはじめたが、「峯の嵐も雪とふる山桜戸のあけぼのの空」とはほど遠かった。難なく全員浅間山をクリアし、その日の宿木賀温泉「KKR(国家公務員共済組合連合会)宮の下」にて大いに懇親を深めた。翌朝は乙女峠からの金時山アタックとなり、昨夜の二日酔もなにかは、全員元気に登頂し無事下山し、恒例の山祝いに舌鼓をうった。

### 2. ⑦ ヤシオつつじの檜洞丸(1,601m)登山

- ・ 5月29日(日) 日帰り
- ・ 登山リーダー：山口 良治(昭44学精)
- ・ 参加者：7名

登山の企画者及びリーダーが、海外旅行のため急遽変更になったものの、山口氏が纏めて下さり楽しい山行となった。新松田駅に7:48に全員集合し、2台の自家用車に分乗し西丹沢自然教室の駐車場に行くが、当日が山開きの日に当たり止む無く路上駐車。大渋滞の山道を頂上近くまで登ると、急に渋滞が解けヤシオつつじやミツバつつじの花が包み込むように歓迎してくれ、疲れも忘れるほどでした。花に囲まれた幸せな登山となり、汗を流した温泉にとろけそうな気分で浸かり大満足でした。

### 3. ⑧ 東京の最高峰雲取山(2,017m)&三峰山

- ・ 7月9日(土)～10日(日) 1泊2日
- ・ 登山リーダー：山口 良治(昭44学精)
- ・ 参加者：7名

東京の最高峰の雲取山に登りたいとの希望もあり企画することになったが、行程的に難しいところもあり、参加者が限られてしまった。西武秩父駅に8:14到着、全員集合となり秩父鉄道の御花畑駅から三峰口駅、更にバスで大輪まで行きケーブルに乗り、一気に三峰山頂(1,130m)に到着。天気の具合が心配され、午前11時頃に計画通り縦走するか引き返すか、最終決定することにして登山開始。11:20の小休止のときに霧も晴れたので、計画通り実施することをリーダーが決定した。雲取山荘の夜は素晴らしく、夕刻から降り出した雨は夜半には上がり満天の星空を提供してくれた。翌朝は簡単に雲取山頂を極め、東京都側の最高地点でもカメラに収まり、ご満悦のうちに富士山にもご挨拶して頂き、満ち足りた雲取山縦走となった。

### 4. ⑨ 草紅葉の尾瀬ヶ原散策と燧ヶ岳登山

- ・ 9月17日(土)～18日(日) 1泊2日
- ・ 登山リーダー：田崎 耕八(昭32学電)
- ・ 参加者：13名

菅谷副会長からの要望もあり、燧ヶ岳の登山時期を草紅葉の頃にしようということになり設定された。まさにその日は旧暦の14日(待ち宵の月)にあたり、輝く月光の歓迎を受け、月下の盃も何時もより心なしか進んだようである。初日は全員で尾瀬ヶ原を縦断し草紅葉と燧ヶ岳の絵になる構図を満喫した。2日目は尾瀬沼の花々を楽しむグループと燧ヶ岳が制覇を狙うグループに別れ、行動し長蔵小屋で合流し大清水までの長い道を粛々と進み無事に走破できた。高速直通バスの新宿までの行程は賑やかな山祝いの場となり盛り上がった。

### 5. ⑩ 天城山登山・踊り子の道と河津桜ハイク

- ・ 2月18日(土)～18日(日) 1泊2日
- ・ 登山リーダー：田崎 耕八(昭32学電)  
ハイクリーダー：山崎慎一郎(昭31学原)
- ・ 参加者：16名

冬、特に2-3月末までの天城山は、太平洋側を暖かな低気圧が通過するときに雪に見舞われることが多く、注意深く計画する必要がある。今年に限り雪が少なく、準備して頂いたアイゼンが必要なくなったのにはどう判断して良いかわからない。(次頁中段 ★印へつづく)

# 東京支部ホームページ (HP)について

HP 編集委員 矢野 陸男 (昭 32 学原)

多賀工業会東京支部のホームページも 2004 年 10 月開設以来、各同好会のお知らせ、活動報告などを主に掲載し、ページ数も約 60 ページ。アクセス者数も、この原稿を書いている 5 月 17 日現在で、1600 を越えました。アクセス者数は同じ人が何度アクセスしてもダブルカウントしないので、アクセス数はこの数倍有ったものと推定され、有効にホームページが利用されているものと思っております。

HP 編集室としてはこのホームページが会員への情報連絡の場として、少しでも役に立てばと思ひ、最新の情報を迅速に掲載することに主眼をおき、制作しております。

話は変わりますが、今年の春先ファイル交換ソフト [Winny] に依る情報流出が騒がれました。実際は以前に流出していたものが、最近になって



## ★ (前頁からつづく 山遊会報告)

お陰で登山は楽になったが、温かい気配がくるのが遅れたせいか、肝心の河津桜が 2 週間も開花が遅れ、写真家の各位にはもの足りなかったのではないかと思う。斯様な訳で初日の登山は楽々ムードの中、樹氷の美しさに感動しながらの素晴らしい登山になった。踊子の道探訪グループは旧道の天城トンネルを通り抜け天城越えを体感した。

翌日の河津桜花見と踊子歩道を辿り河津七滝を巡るハイクで、少し開花している桜を楽しみなが

確認され大騒ぎになったようですが、それにしてもウイルスに対して無防備の方が多いには驚きです。この場合は自分のパソコンが壊されるわけでは無いので、なおさらです。

ホームページの制作にも使用される HTML 形式のメールはウイルスに感染しやすいと言われていますが、HTML 形式のメールを発信されている方が多くおられます。これも受信者側が被害を受けることとなります。対策として、私の場合 HTML 形式のメールはテキスト形式に変換して受信するように設定しています。ウイルスも一度感染して、パソコンを壊されてみないと実感が沸いて来ないものです。

みなさまもご自分のパソコンの設定を一度見直しては如何でしょう。

多賀工業会東京支部ホームページ URL :

<http://www.taga.admt.ibaraki.ac.jp/sibu/tokyo/>  
本ホームページに対するご意見などありましたら編集室のメールアドレス

E-mail:taga-tokyo@yahoogroups.jp

へご連絡をお願いします。

ら水垂まで登り、記念撮影をして解散した。

## 6. その他

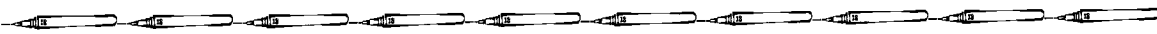
詳細報告は下記 URL をご覧下さい。

<http://www.taga.admt.ibaraki.ac.jp/sibu/tokyo/houkoku/index.html>

平成 18 年度は 17 年度並のペースで計画し行事を進めておりますので、皆様の気楽なご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先: 小宅 仁

oyake@smile.ocn.ne.jp 042-554-5443



## 編集後記

◆突然の電話依頼に、快く応じて随筆を寄稿して頂いた皆様に感謝します。

多賀工業会の皆様が、仕事に趣味に多様な人生を送られていることが実感できる会報になったと思います。会報が会員の皆様のよりよい絆となるよう、次号にて、原稿依頼を受けたときには、よろしく願います。(菅谷)

◆自然な形で支部の過去、現在、未来を語り合っ頂くため、座談会「東京支部の活性化のために」を企画しました。残念ながら若い方の参加がありませんでした。熟知している近江支部長、三本木幹事長、広瀬副幹事長、現役の飯塚氏の方々の大変有意義なご意見は今後の活性化に役立つと確信します。今回のような企画は今後も続けたいと考

えております。(小林)

◆日立総合支部総会に出席した際、本部の鶴田理事長から大学法人化により「茨城大学社会連携事業会」が発足し、会員の加入および募金(寄付集め)を行っているが余り芳しくない。東京支部のご協力をお願いしたいとのことですので有志のご協力をお願いします。また、これに関連して近く「茨城大学同窓会連合会」の創設が準備されているとのことですのでお知らせします。(三本木)

◆昨年は記事内容が海外物オンパレードであったように思います。うぬぼれかもしれませんが、今年は編集委員諸氏がバランスを考えて記事をお願いしたので、(偶然南極観測の話が 2 件とはなりましたが、) 広範囲の内容に出来たと思います。

編み終えて白南風の吹く夕まぐれ (兼子)

# 「東京支部会則」

(平成16年10月23日改正)

## 第1章 総則

第1条 本会は、多賀工業会東京支部と称し、その支部事務所を支部長宅に置く。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて母校の隆昌に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員名簿の整備・管理
- (3) 会員相互の連絡及び共励共助
- (4) 会員と母校との連絡
- (5) 発展向上のための講演会、研修会
- (6) 同好会活動
- (7) その他目標達成のため必要と認める事項

## 第3章 会員

第4条 本会の会員は、多賀工業会の会員で東京・神奈川及び近隣に在住・在勤している者、並びに支部長が特別に承認した者とする。

## 第4章 役員

第5条 本会は次の役員を置く。

支部長 1名  
副支部長 若干名  
幹事長 1名  
幹事 若干名  
会計幹事 1名  
監事 2名  
その他（同好会幹事、相談役、顧問など）  
若干名

第6条 役員は、次の方法によって定める。

支部長は、幹事会の互選とし総会での承認を得るものとする。

支部長以外は、支部長が推薦し、現幹事会の決議を得るものとする。

第7条 役員の仕事は、次の通りである。

支部長 本会を代表し、会の運営・会務執行の責めに任ずる。  
副支部長 支部長を補佐し、支部長が職務不能な時はその責務を代行する。  
幹事長 幹事の業務を統括する。  
幹事 会の運営業務を夫々分担して遂行する。  
会計幹事 本会の収支、及び会計を担当する。  
監事 会計を監査し総会で報告する。  
同好会幹事 同好会毎に部長、副部長等を定め、自主的に運営する。  
相談役 支部長の相談に応ずる。  
顧問 支部長・幹事会の諮問に応ずる。

第8条 役員の任期は2年とし、重任を妨げない。

## 第5章 会議

第9条 支部総会は、原則として毎年10月に開催する。但し、必要に応じ臨時支部総会を開くことができる。

第10条 支部総会は、次の事項について審議し、出席者の過半数の賛成で決議する。

- (1) 支部長人事
- (2) 会則の改廃
- (3) 本会の年度決算並びに次年度予算
- (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画
- (5) 幹事会からの提出議案
- (6) その他本会の目的を達成するために必要な事項

第11条 幹事会は、幹事をもって構成し原則として年4回（2、5、8、11月の第4土曜日）開催する。但し、必要に応じ支部長又は幹事長が臨時に召集し開催できる。

第12条 幹事会は、次の事項について審議し、出席者の3分の2以上の賛成で決議事項とする。

- (1) 支部長の互選及びその他役員決定
- (2) 会則の改廃案
- (3) 本会の年度決算案並びに次年度予算案
- (4) 本会の年度事業報告案並びに次年度計画案
- (5) 総会への提出議案
- (6) 細則規定の改廃
- (7) その他会務運営上必要な事項

## 第6章 会計

第13条 本会の経費は、会員の年会費、寄付金及び本部補助金をもってあてる。

第14条 現金の保管は銀行預金の方法による。

第15条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

第16条 本会の収支は、会計幹事が担当し、監事が会計監査を行い総会に報告する。

付則 本会則は、平成16年10月23日より施行する。

## 細則規定

第1条 年会費は、2,000円とし、会計年度内に徴収する。複数年度分の先行納入は拒まない。但し、一旦納入の会費は返還しない。

第2条 会報は次の者に配布する。

- (1) 年会費納入者（但し、5年連続未納者には6回目に通知し以降配布を停止する）
- (2) 支部総会参加者
- (3) 東京・神奈川に在住・在勤の直近3年間の卒業生
- (4) 配布希望者で支部長が許可した者
- (5) その他多賀工業会本部及び支部等の関係者

第3条 総会開催の案内は、会報にて発表するとともに書面で通知する。書面による通知は、第2条の対象者以外にも広げて発送する。

第4条 慶弔規定は別途定める。

第5条 本細則の改廃は、幹事会にて行う。

本細則は、平成16年10月23日より施行する。

# K.K. 渡辺建築事務所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-4-8

TEL 03-3987-1946 FAX 03-3985-3433

代表取締役 渡辺 益男 (昭19専精)

設計した主な顧客

(官庁)

東京都庁

各区役所

埼玉県庁

川口市等

その他

(民間)

本田技研工業(株)

信越科学工業(株)

日本マタイ(株)

トステム(株)

その他

建築設計監理

(コンサルタント)

著書 工場建築デザイン

(日刊工業新聞社)

平成7年5月出版

# 大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14

TEL:03-3837-5291 FAX:03-3837-5293

今年度で会社設立22年目になります。葉書から大判ポスターまで幅広く印刷しておりますので、どんなものでもご相談ください。まずはお電話を。

**TEL:03-3837-5291**

## 多賀工業会 東京支部

事務局 〒113-0032 東京都文京区弥生2-8-6

支部長 近江 義勝方

電話 03-3811-7088 (FAX 共)

### 編集担当委員

鈴木 日出男 (昭30学原)

三本木 武 (昭30学金)

兼子 八郎 (昭38学電)

小林 渡 (昭38学電)

菅谷 禎男 (昭42学機)

### 東京支部会報 [第9号]

発行 平成18年8月26日

発行者 支部長 近江 義勝

〒113-0032 東京都文京区弥生2-8-6

TEL&FAX 03-3811-7088